

2014 年度後期
「教員による授業アンケート」

～調査結果報告～

平成 27 年 3 月

奈良佐保短期大学 自己点検評価室

目次

基礎教養科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
1	英語Ⅰ	キャンベル早川久美子	演習	1
2	英語Ⅱ	椎野 美知子	演習	2
3	基礎ゼミナールⅡ	向井 光太郎	演習	3
4	情報処理演習Ⅱ	中村 妙子	演習	4
5	人権と差別	馬越 かよ子	講義	5
6	心理学	落合 良香	講義	6
7	奈良の伝統行事	小北 博孝	演習	7
8	奈良の伝統行事	鈴木 浩	演習	8
9	奈良の伝統行事	鉄田 憲男	演習	9
10	奈良の伝統工芸	やまもと あつし	演習	10
11	フランス語Ⅱ	浅野 友子	演習	11

生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
12	医療的ケアⅠ	水野 尚美	講義	12
13	介護概論Ⅱ	安永 龍子	講義	13
14	介護総合演習Ⅳ	森永 夕美	演習	14
15	居住環境整備の技法	北口 照美	演習	15
16	高齢者に対する支援と介護保険制度	小木曾 真司	講義	16
17	こころとからだのしくみⅠ	小槻 智彩	講義	17
18	こころとからだのしくみⅢ	森田 婦美子	講義	18
19	コミュニケーションの基本	小木曾 真司	講義	19
20	社会福祉施設経営	酒井 宏和	講義	20
21	セラピー概論	村本 早希	講義	21
22	地域福祉の理論と方法	武田 卓也	講義	22

生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
23	育児学	飯田 恵子	講義	23
24	運動生理学	松本 範子	講義	24
25	栄養指導論実習 I	須谷 和子	実習	25
26	社会福祉概論	李 仙恵	講義	26
27	食品の官能評価・鑑別論	池内 ますみ	演習	27
28	生理学実習	三浦 さつき	実習	28
29	調理実習 II	島村 知歩	実習	29
30	臨床栄養学	毛受 真由美	講義	30

生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
31	イラスト・画像処理	井上 彩	演習	31
32	経理実務 II	谷村 真理	講義	32
33	事業計画論	登坂 一博	講義	33
34	ゼミナール II (ビジネスキャリア)	東出 加奈子	演習	34
35	ビジネス文書 I	登坂 一博	講義	35

地域こども学科 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
36	音楽科教育法	安田 寛	講義	36
37	音楽基礎演習Ⅱ	大西 有紀	演習	37
38	音楽基礎演習Ⅱ	澤田 博	演習	38
39	音楽基礎演習Ⅱ	中島 倍代	演習	39
40	音楽Ⅱ	大城 弓恵	演習	40
41	音楽Ⅱ	玉井 奈摘	演習	41
42	音楽Ⅱ	宮田 眞理	演習	42
43	音楽Ⅳ	奥田 尚子	演習	43
44	音楽Ⅳ	山下 玲子	演習	44
45	国語科教育法	川端 建治	講義	45
46	こどもと自然	園部 勝章	講義	46
47	算数科教育法	重松 敬一	講義	47
48	児童の健全育成と福祉	潮谷 光人	講義	48
49	小児保健B	早川 淳	講義	49
50	図工科教育法	宇田 秀士	講義	50
51	生活科教育法	小幡 肇	講義	51
52	体育科教育法	北澤 太野	講義	52
53	保育(言葉)	増井 啓子	演習	53
54	保育心理学演習	石田 裕子	演習	54
55	保育心理学演習	田中 善大	演習	55
56	保育内容総論	片岡 三和	演習	56
57	保育(表現・身体表現)	青木 恵子	演習	57
58	保育(表現・幼児造形)	福井 靖子	演習	58

専攻科 福祉専攻 専門教育科目

教員 アンケート No.	科目名称	教員名	授業形態	掲載 ページ
59	介護予防	加藤 明日香	講義	59
60	現代社会と疾病	竹花 正剛	講義	60
61	発達と老化の理解	吉田 裕司	講義	61

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : キャンベル早川久美子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 英語 I **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8305c **授業形態** : 演習 **受講者数** : 28名 **回答者数** : 26名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	24	2	-	-	1	4	-	21	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.08		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 3.8%	60分 程度 3.8%	30分 程度 23.1%	ほとんど していない 69.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 3.8%	60分 程度 3.8%	30分 程度 26.9%	ほとんど していない 65.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.08		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 23.1%	やや 高かった 50.0%	適切 であった 26.9%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.81		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 42.3%	ある程度 注意 していた 50.0%	あまり 注意し てい なかつ た 7.7%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.85		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.69		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.96		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

英語総合教材を用いての4技能それぞれに焦点が当てられているもので、内容はヨーロッパの歴史・地理的知識も含めて、現在のヨーロッパ文化について理解し、また、それについて自分の意見がもてることを目指している。また、社会情勢的にも、英語への関心が高まっている、但し学生の受けとめはまだ緩いが、平易な文章を使つてのトレーニングを用いて、繰り返しや慣れを喚起した。

2 アンケート結果に対する見解

参加学生の英語力には、かなりの開きがある。教材の難易度は低くはないが、本文に形に慣れるとかなりの文章が訳せるようになっていた。やはり、前もつての学習と後の復習にどれだけ時間がかけているか、がそのまま、英語力につながっていた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

英語の語彙力を高めて、英語の理解、表現力をつける。また、教科書の内容理解を通して、自国文化も含めて、ヨーロッパ文化への関心を高め、さらにはそれらについて、自分の意見がいえることを目指している。成績評価は、筆記試験と平常点の両者を総合しておこない、生涯教育の観点からも、自律学習ができるようその自主性および自律学習力は積極的に評価した。

4 授業改善の方法

リスニングの発話スピードは標準であるが学生にとってはかなり早いため、すべて聞き取れるというところまでは難しい。そのなかでキーワードや、決められた文をターゲットとして、設定することをこれまで以上に明確に伝えていきたい。これまでの学習観からか、完成度の高い日本語に訳すことだけが学習であると捉える傾向があるため、素材をかえ文化リテラシーは融和的に検討することとする。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 椎野 美知子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 英語Ⅱ **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8310a **授業形態** : 演習 **受講者数** : 15名 **回答者数** : 13名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	12	-	1	-	-	-	-	11	-	1	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.54		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 15.4%	30分 程度 53.8%	ほとんど していない 30.8%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 30.8%	30分 程度 38.5%	ほとんど していない 30.8%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.62		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 7.7%	やや 高かった 46.2%	適切 であった 46.2%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.77		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 76.9%	ある程度 注意 していた 23.1%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.46		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができたと思いますか。	3	4.08		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.23		■				

1 授業の概要、特徴等

教材として、広告文、案内文、レシピなど比較的短くてまとまっている英文を使用した。授業では、1. 英文の構文と内容の理解 2. 学んだ英文をモデルにして、自分のオリジナル文を作成する 3. 自分の作った文を、口頭で他人に伝えるように発表する 以上の事に取り組んだ。

2 アンケート結果に対する見解

比較的少人数のクラスだったので、学生一人一人と向き合うことが出来た。学生の質問にそれぞれ丁寧に対応出来たのが、アンケートに表れているのかなと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

英文読解を苦手とする学生が、口頭発表になると積極的に取り組むことに驚くと共にとても嬉しく思った。よって成績評価では、レポートや小テストだけでなく授業への取り組み方や発表での積極性を高く評価した。

4 授業改善の方法

教材が少し難しかったので、途中でやる気をなくす学生もいた。授業の目的が自分で英文を作りそれを口頭で発表するという事なので、次年度はもっと易しいモデル文を使うことにした。それでやる気を出してくれることを願う。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 向井 光太郎 **職名** : 准教授 **所属** : 全学
科目名称 : 基礎ゼミナールⅡ **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8005d **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	4	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.00		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 25.0%	30分 程度 -	ほとんど していない 75.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 25.0%	30分 程度 -	ほとんど していない 75.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.25		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 25.0%	やや 高かった 25.0%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.25		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.25		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.50		■				

1 授業の概要、特徴等

本科目は、ビジネス実務能力の向上を目指すもので、「ジョブパス」検定のケース問題、授業内のコミュニケーションでのPCメールを活用および実務家講師の一部登用による接遇ロールプレイでスキルアップにより、産業界が求める多彩なコミュニケーション能力を繰り返し修練することで、「ビジネス実践演習Ⅰ」「インターンシップ」および産業界ニーズGP「社風発見インターンシップ」でのパフォーマンスに貢献させた。

2 アンケート結果に対する見解

本科目では、現実のオフィスワークでのパフォーマンス向上を目指したトレーニングで現場実務をイメージさせることを心がけたが、インターンシップの事前事後学習で、グループワークや積極的なアクションなど機動的なコミュニケーション面は、修練の必要性がある。文章の作成能力、語彙力、PCの情報処理スピード、プレゼンテーション能力など幅広い基本スキルの向上に体系的にさらに多くの時間を増やす必要がある。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

大学の教育理念「一. 自律する人 二. 自己と他者を尊重する人 三. 事象に自ら関わる人」を、教養面(専門知識、専門技術)、人間性(マナー、就学意識)、思考力(課題発見力、課題解決力)、行動力(チームワーク、情報発信力)の点から評価した。そこで、講義への出席回数、チームワーク、講義態度、観点、情報量、プレゼンテーションに分けて客観評価を行い採点し、単位認定に結びつけた。ビジネスの現場で必要になる「独創性」の有無を特に評価した。

4 授業改善の方法

基礎的なスキル向上を目指す指導機会では、より多くの各自のトレーニング機会を作る必要がある。また、産業界との接点を増やし現場経験を積ませる機会を増やす必要がある。現実の題材を選択し、現場さながらの教育の場が必要だ。産業界にも協力してもらいながら、現場実践機会を取り入れてビジネス実務能力のレベル向上を図りたい。また、基礎スキルを専門に指導できる担当教員や手法の開発も改善課題である。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 中村 妙子 **職名** : 教授 **所属** : 全学
科目名称 : 情報処理演習Ⅱ **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8410abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 52名 **回答者数** : 45名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	43	1	1	-	12	31	-	1	-	1	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.09		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 2.2%	90分 程度 2.2%	60分 程度 6.7%	30分 程度 6.7%	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 2.2%	90分 程度 2.2%	60分 程度 8.9%	30分 程度 8.9%	ほとんど していない	無回答	-
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.04		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 15.6%	やや 高かった 31.1%	適切 であった 48.9%	やや 低かった 4.4%	非常に 低かった	無回答	-
授業の 進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.25		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 22.2%	注意 していた 48.9%	ある程度 注意 していた 26.7%	あまり 注意して いなかった	全く 注意して いなかった	無回答	2.2%
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.14		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.13		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.51		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

エクセルソフトを用いて、計算機能、関数、データベース機能等を用いてデータ処理ができ、さらに、表の書式やグラフ等を用いて、分かりやすく視覚化できるように、情報スキルを高めていく。指示した問題を理解し、正確に答えを出せるようにする。そのためには、パソコン操作と、算数・数学の基礎的知識の両方が求められ、これまでの学びが授業への理解と進み具合に影響がでる。

2 アンケート結果に対する見解

全体として授業がやりやすかったので、それなりの結果がえられたのではないかと考えている。ただ、授業レベルの項目では、約半数が“適切であった”と評価しているが、“やや低かった”から“非常に高かった”まで分布しており、これまでのパソコン技能や算数・数学的知識のレベルによる差が、授業の理解度に大きな影響を与えており、授業を進める上で配慮しきれない所があった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

①基本的な割合を含んだ計算ができ、計算結果を見やすい表にレイアウトすることができる。②簡単な関数を使うことができる。③分かりやすいグラフを描くことができる。④データベース機能を使って、並べ替えや指示された内容を抽出することができる。この4つの内容を理解し、データを処理できることを目標とする。説明にしたがってのデータ処理と、テスト形式でのデータ処理との理解程度で単位認定する。

4 授業改善の方法

数学的知識、計算能力が、情報処理演習Ⅱの理解度に影響を与えるが、受講学生には、その能力に大きな開きがある。また、すでにエクセルソフトを使いデータ処理ができる学生もおり、パソコン技能にも大きな開きがある。様々な学生がいる中での授業となるので、学生がより満足できる授業とするには、能力別クラスを作る。また、出来ない学生に対しては、TA, SAなどをつけ理解度を高めることも必要かと思う。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 馬越 かよ子 **職名** : 教授 **所属** : 全学
科目名称 : 人権と差別 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8105cd **授業形態** : 講義 **受講者数** : 65名 **回答者数** : 55名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	55	-	-	-	-	-	55	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.91		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 7.3%	30分 程度 18.2%	ほとんど していない 74.5%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 9.1%	30分 程度 14.5%	ほとんど していない 76.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.02		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 3.6%	やや 高かった 16.4%	適切 であった 78.2%	やや 低かった 1.8%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 16.4%	注意 していた 38.2%	ある程度 注意 していた 36.4%	あまり 注意し てい なかつ た 9.1%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.91		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.76		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.96		■				

1 授業の概要、特徴等

人権や差別を生み出すメカニズムについて、「普遍的な視点」や「個別的な視点」の両方からアプローチし、人権問題に対する正しい理解と認識を深めさせる。授業毎に授業内容や授業を通して気づいたこと等について、コミュニケーションカードを提出させ、次回に各人の提出内容を整理した資料により、他者の考え方を伝えて視野を広げさせる。グループディスカッションを意見表明の場とする。最終、人権メッセージを作成させる。

2 アンケート結果に対する見解

人権や差別の観点から、常に国内外のニュース等に関心を持ちメモするように指導しており、事前事後等のレッスン時間については、時間数では表せないが、レポート等の課題内容において反映されていると考える。子どもの人権等個別的な視点を基に、保育士や幼稚園教諭として子どもと関わる折の自分の課題として考え、人権意識の高揚を図る姿勢が培われていると思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

人権や人権問題に対する認識を深めるとともに、「全ての人間の尊厳」を実現する方向に人権感覚や意識の高揚を継続的に図るため、自分自身や社会がどのようにしたらいいかを考察する力を身につけ実践的な行動に踏み出せることを目標とし、自ら「気づき」「考え」「行動する」ことを評価基準とする。受講態度や指定課題の内容30%、科目修了レポート及び人権メッセージ発表と他者評価70%により総合的に判断して単位認定する。

4 授業改善の方法

大半の学生が、授業により新しい知識を得て問題意識や関心が高まり、将来に役立つとしているが、残りの学生に対して同じような効果をもたらすために、発表やグループディスカッション等更なる工夫が必要であると考えている。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 落合 良香 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 心理学 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8125b **授業形態** : 講義 **受講者数** : 31名 **回答者数** : 27名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	26	1	-	-	-	26	1	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.04	■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 - 90分 程度 - 60分 程度 - 30分 程度 18.5% ほとんど していない 81.5% 無回答 -					
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 - 90分 程度 - 60分 程度 3.7% 30分 程度 18.5% ほとんど していない 77.8% 無回答 -					
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.07	■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 22.2% やや 高かった 51.9% 適切 であった 14.8% やや 低かった 3.7% 非常に 低かった 7.4% 無回答 -					
授業の 進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	2.56	■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 14.8% 注意 していた 29.6% ある程度 注意 していた 33.3% あまり 注意し てい なかつ た 22.2% 全く 注意し てい なかつ た -					
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	2.35	■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.04	■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	2.93	■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

本講義は、一般教養としての心理学の知識を幅広く身につけ、自らの生活に生かすことを目指した授業であった。心理学という学問の抱えるテーマは多岐にわたるが、より日常生活に関係が深く、また学問的にも重要なテーマを選定し、全15回の中でできるだけ多く取り上げ、学生たちに知識を提供した。講義中は、授業内容をよりわかりやすくするため、日常生活における具体例や、学生に考えさせる問いかけを多く盛り込んだ点が本講義の特徴である。

2 アンケート結果に対する見解

授業スピードに関する声が少なくないが、学生の多くは一字一句写しており、大学以降のノートテイキングスタイルが身につけていない者が多数いると思われる。また、「授業内容が難しい」と感じているにも関わらず、自学自習する学生が極めて少ないことから、大学での自主的な学習態度が十分形成されていないと考察される。これらのことは、初年次教育のプログラムの中で身につけるよう支援していく必要があるのではないかとと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

教養科目との位置づけから、授業の目標として、心理学について幅広く紹介することを目指した。そのため、心理学における話題をできるだけ多く取り上げた。配布資料も可能な限り詳しく、参考文献も豊富に提供した。毎回欠かさず出席する学生の多さや、面白かったとのコメントから、目標は達成されたと認識している。成績評価基準と単位認定については、毎回の努力(平常点)と知識(試験)で測り、一面的な評価を行わないようにした。

4 授業改善の方法

心理学という学問は、他ならぬ我々の「心」や「社会」を扱う学問であるため、講師がどれだけ多くの知識を伝えたとしても、学生の側に自分の身に引きつけて考える態度・意欲がなければ、よりよい理解は難しいと思われる。そのため、授業を改善するにあたっては、学生の意欲が高まるような身近な例や、話題になっているニュースなどを多く取り上げ、それについて授業中に考えることを促す働きかけを行うことが有効であり、必要と思われる。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 小北 博孝 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 奈良の伝統行事 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8118 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 19名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	-	-	-	6	-	-	7	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.79		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 7.1%	30分 程度 28.6%	ほとんど していない 64.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 7.1%	30分 程度 21.4%	ほとんど していない 71.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 7.1%	やや 高かった 14.3%	適切 であった 71.4%	やや 低かった -	非常に 低かった 7.1%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.93		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 57.1%	ある程度 注意 していた 35.7%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった 7.1%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.64		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.64		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.43		■				

1 授業の概要、特徴等

奈良県の歴史の概略を説明し、子供の成長段階での行事を説明した。またお正月の伝統であるしめ縄作りの実習をした。

2 アンケート結果に対する見解

全体平均にくらべ、やや劣るが、妥当なところと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

4 授業改善の方法

興味のある科目を選択する為に、事前にもう少し説明が必要。全く興味を示さない学生が目立つ。いねむりの防止。いねむりを誘引している。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 鈴木 浩 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 奈良の伝統行事 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8118 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 19名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	-	-	-	6	-	-	7	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.79		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 7.1%	30分程度 28.6%	ほとんど していない 64.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 7.1%	30分程度 21.4%	ほとんど していない 71.4%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に 高かった 7.1%	やや 高かった 14.3%	適切 であった 71.4%	やや 低かった -	非常に 低かった 7.1%	無回答 -	
授業の 進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.93		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 57.1%	ある程度 注意 していた 35.7%	あまり 注意し てい なかつ た -	全く 注意し てい なかつ た 7.1%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.64		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.64		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.43		■				

1 授業の概要、特徴等

奈良の伝統行事を学ぶことにより日本人の心の原点とは何か、奈良という地域社会の特色を理解する。そこで、県内の社寺や地域で行なわれる有名な祭りや伝統芸能の代表例を40行事抽出し、臨場感溢れる祭り等の動画と写真をパワーポイントを駆使して平易に講義した。学生には実際に現地見学してきた行事について、ブレインストーミング手法によるグループ討議を行なわせ、その討議成果をグループ毎にプレゼンを行い授業の纏めとした。

2 アンケート結果に対する見解

伝統行事の多くは、登場人物が高齢者で、なじみのない出し物や行事内容そのものが、古風なため「年寄り向け」「物好き向け」と評した意見もあり、今後は、若者参加の多い祭り、行事に焦点を当てていきたい。祭りが何を意味したものなのか、何是、長く受け継がれたのか等学生の視点から捉え、その印象を授業内で語りあい、一層の理解が深められる形に改善していきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学びの場である「奈良」に関することについて、様々な視点から理解を深める。奈良に長く受け継がれてきた伝統行事を知り、実際の内容について理解する。そして、行事現場を見学し、触れて、他者に対し紹介することができるようになる。成績評価は、授業の参加度が20%、小テスト20%、行事参加・見学のレポート30%、グループ討議によるプレゼンテーション30%が配点基準である。

4 授業改善の方法

伝統行事として取り上げる対象数を減じて、ひとつひとつの行事を詳しく学べるようにする。又、若者が参加している祭りを重点化して紹介していく。受講生の関心を高められるよう、説明ポイントの把握方法を分かり易く行う。意思疎通を十分に図る。プレゼンテーションの質を向上させられるよう、討議の進め方と体制をしっかりと組み、その成果を高めていく。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 鉄田 憲男 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 奈良の伝統行事 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8118 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 19名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	-	-	-	6	-	-	7	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価					
				■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.79		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 7.1%	30分 程度 28.6%	ほとんど していない 64.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 7.1%	30分 程度 21.4%	ほとんど していない 71.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 7.1%	やや 高かった 14.3%	適切 であった 71.4%	やや 低かった -	非常に 低かった 7.1%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.93		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 57.1%	ある程度 注意 していた 35.7%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった 7.1%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.64		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	3.64		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.43		■				

1 授業の概要、特徴等

「伝統行事」がテーマなので、貴図書室のDVDを借りたり、自前でDVDを調達し、学生の興味を引くように努めた。

2 アンケート結果に対する見解

自己評価は高いようだが、事前学習をした片鱗も窺えなかった。居眠り、スマホいじり、隠れての読書など、真剣に聞いていたとは思えない。私は毎回小テストを実施したが、見事に、授業態度が点数に反映されていた。ただし「グループワークなどがあれば、もっと楽しい授業になったと思う」という意見は参考になった。来年度は、グループワークを課したいと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

出席状況、小テストの点数、プレゼンテーションの内容など、総合時に評価し、公平性の高いものとなったように思う。

4 授業改善の方法

当会は3人の講師が交代で対応したので、進め方にややバラツキがあった。今後ともDVDなどの視聴覚教材を中心として、学生の興味を引くような授業に努めたい。また、あまり学生と講師の年齢差があると学生が関心を持たないので、毎年講師を入れ替えるなど、講師陣の若返りを図りたい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : やまもと あつし **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : 奈良の伝統工芸 **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8119 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 32名 **回答者数** : 25名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	24	-	1	-	-	12	4	8	-	1	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.80		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 4.0%	30分 程度 4.0%	ほとんど していない 92.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 4.0%	30分 程度 4.0%	ほとんど していない 92.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.04		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 12.0%	やや 高かった 16.0%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった 12.0%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.12		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 28.0%	注意 していた 24.0%	ある程度 注意 していた 32.0%	あまり 注意して いなかった 8.0%	全く 注意して いなかった 8.0%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.16		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	2.84		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	2.64		■				

1 授業の概要、特徴等

伝統工芸に携わる方々の声に耳を傾け、その仕事を目で見て、それをもとにして学生自らがディスカッションを通して主体的に考えるというのがこの講義の特徴です。伝統工芸を通して、聞くこと、見ること、考え対話すること、プレゼンすることを学んでもらうというのがそのねらいです。

2 アンケート結果に対する見解

学生全体的に言えることとして、主体的に学ぶという姿勢が見えにくかったのが大変残念なことでした。講義に積極的に「参加」しなければ、何も身につかないという内容なので、参加しない学生にとってはおもしろくないと感じられたのではないのでしょうか。ただし回が進むにつれ、主体的に学ぶ姿勢の学生が増えてきて、これは救いとなりました。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

主体的に学ぶとする学生には、1で述べたねらいは達成できたように思う。成績評価についてはレポートの内容を重視した。文書作成ソフトの使用を求めたところ、少なくない数の学生から手書きでの提出を認めてほしいとの声があり驚いた。また出席日数が足りないにもかかわらず、単位認定を求める学生もいた。対応に戸惑った。

4 授業改善の方法

学ぼうとする学生に受講してもらいたい旨を、シラバスに記述しました。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 浅野 友子 **職名** : 非常勤 **所属** : 全学
科目名称 : フランス語Ⅱ **科目群** : 基礎教養科目
授業コード : 8335 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 13名 **回答者数** : 13名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	13	-	-	-	-	-	-	13	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.08		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 7.7%	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 7.7%	ほとんど していない	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.23		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 30.8%	やや 高かった 30.8%	適切 であった 38.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.92		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 30.8%	注意 していた 30.8%	ある程度 注意 していた 15.4%	あまり 注意し てい なかった 7.7%	全く 注意し てい なかった 7.7%	無回答	7.7%
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.92		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.46		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.00		■				

1 授業の概要、特徴等

フランス語Ⅰに引き続き、会話表現を練習しながら初級文法の後半を学ぶ。フランス語Ⅰと同じ教科書を継続して使用する。概ね教科書に沿って授業を進めるが、学生の興味・関心を見て、別にプリント等副教材を活用することもある。

2 アンケート結果に対する見解

教科書に添付されているCDを聴くように促す以外に課題は課していないので、授業以外の勉強時間が少ないのは仕方のないことと考えている。設問⑩の将来に役立つかという問いを、就職や資格に直結するかと解釈すれば、高い点数とはならないだろう。しかし、何事かを学ぶという営みが人生を豊かにすることは確かである。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績評価は、授業中に課す課題・小テストの結果を総合して行う。教科書で学んだ文の形を応用して自分の言いたいことを表現することが目標である。手持ちの知識で言いたいことを伝えようと努力することは、言葉の意味について深く考え、言葉を大切にすることにつながるので、課題等はフランス語作文が主な内容となる。

4 授業改善の方法

昨年度は教科書の例文や練習問題に習っていない単語が使われており、学生が負担に感じることもあった。また、語学以外のフランス文化について知識を得、親しみを持つことも大事なので、教科書の選定についてはさらに配慮したい。知らない言語を学んで理解していくこと自体の面白さ・楽しさを何とか伝えていきたいと思う。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 水野 尚美 **職名** : 講師 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 医療的ケア I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1570 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 15名 **回答者数** : 15名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	15	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.60		■ ◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 6.7%	60分 程度 6.7%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 53.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 13.3%	60分 程度 6.7%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 46.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.93		■ ◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 33.3%	適切 であった 66.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.73		■ ◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 13.3%	注意 していた 46.7%	ある程度 注意 していた 40.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.60		■ ◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.87		■ ◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.13		■ ◇				

1 授業の概要、特徴等

介護福祉士の業務に医療的ケアが加えられた。その経緯や意義を理解するとともに、医療職との連携のもとで、医療的ケアを安全・適切に実施できるように、基礎的な知識や技術を修得する科目である。

2 アンケート結果に対する見解

授業に際し、課題を設定していたが、医学的知識について主体的に関心を持たせることができず、事前学習時間の短さにつながったと考えられる。また、今年度から新たに開講された科目であったため、模索しながらの授業展開が、アンケート結果全体の低さにつながっていると思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生全員が授業目標を達成できているとは言い難い。成績評価や単位認定については、授業点や小テストを含めた筆記試験の点数などをもとに、厳正に評価した。

4 授業改善の方法

スライドや動画の視聴を取り入れることで、理解度を上げることになるが、使用中の居眠りや私語につながることもあるため、効果的な使用方法を考えている。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 安永 龍子 **職名** : 教授 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 介護概論Ⅱ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1210 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	13	1	-	-	14	-	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.64		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 7.1%	30分程度 35.7%	ほとんど していない 57.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 14.3%	30分程度 42.9%	ほとんど していない 42.9%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.07		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 7.1%	やや高かった 35.7%	適切であった 57.1%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.93		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度注意していた	注意する必要は なかった 14.3%	注意していた 50.0%	ある程度注意 していた 35.7%	あまり注意して いなかった -	全く注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.50		■ ◆				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	4.07		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.29		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

介護福祉士が働く介護サービス提供の場と特性を理解するとともに、介護者と利用者の安全を守るリスクマネジメントや感染対策について学習する。

2 アンケート結果に対する見解

授業の事前学習と事後学習の時間が全体平均よりも少しだけ多かったが、30分にも満たない状況であり、事前学習にいたっては、ほとんどしていない学生が約6割いた。事前事後の学習の課題として、穴埋め式資料を用意するなどしていたが、学生が学習に取り組める工夫をしていく必要がある。今回は資料の提出のみで、確認のための小テストなどを実施しなかった。そのことが学習する時間の少なさにつながっている可能性があると考えられる。授業の進め方で学生の理解度を配慮していたかの問いでは、全体平均より低い比率であり、また自由記載欄に障害の分野への理解に時間がかかったとあることから、理解しやすい工夫を考える必要がある。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

評価基準としては、筆記試験を80%、授業態度を20%とした。筆記試験で学習の理解度を図り、授業態度はレポートの提出や授業の出欠、態度で評価を行った。再試験者は4名(16名中)であったが、1名は再試験登録を行わず、無資格となる。他3名は、特別指導にも出席し単位認定された。

4 授業改善の方法

・事前学習・事後学習ができる授業の工夫 ・障害の分野への理解を深めるための授業の工夫

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 森永 夕美 **職名** : 准教授 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 介護総合演習Ⅳ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1465 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 15名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	14	-	1	13	-	-	-	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.87		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 26.7%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 40.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 6.7%	30分 程度 53.3%	ほとんど していない 40.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 6.7%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.87		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 66.7%	ある程度 注意 していた 33.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.93		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.80		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.00		■				

1 授業の概要、特徴等

前半は介護実習Ⅳに向けて、自己学習を促し目標設定や実習の内容や課題等について指導を行った。実習終了後の後半は、実習のまとめと、卒業時共通試験に向けての模擬試験やその解説など試験対策を行った。

2 アンケート結果に対する見解

予習復習の時間としてまだまだ少ないと感じる。そのため実習について理解が深まっていないのではないかと感じる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業態度と事例研究の取組での総合評価で単位認定している。次年度からは共通試験の成績等も評価に入れたほうが良いと考える。

4 授業改善の方法

事例研究を行うことにより、2年間の学習が繋がり、なぜ多角的な学習が必要なのか理解できるため、今後も継続していく。国家試験導入も視野にいれてのスケジュールを考えていく必要がある。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 北口 照美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 居住環境整備の技法 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1325 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 17名 **回答者数** : 16名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	15	-	1	15	-	-	-	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 12.5%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 62.5%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 12.5%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 62.5%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.63		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 50.0%	適切 であった 43.8%	やや 低かった -	非常に 低かった 6.3%	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.69		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった -	注意 していた 68.8%	ある程度 注意 していた 31.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.81		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.63		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.69		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

住まいを快適な環境として整備するための要件を理解する講義である。介護福祉士養成の科目として、高齢者等への生活を支援する福祉住環境という視点での講義が中心となっているが、人間生活に必要な環境条件を数値で科学的に理解することを基本としている。また、生活は、住まいだけでなく近隣環境のあり方も重要となってくる。本講義では地域環境も含めて広く生活空間を理解することを特徴としている。

2 アンケート結果に対する見解

アンケートは、妥当な回答がされていると感じる。受講生の多くは受講態度もよく課題にもまじめに取り組んでいた。事前・事後の勉強の時間は少ないことから、講義内容を日常生活の中で活かすことの難しさを感じられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標は、快適な居住空間として必要な寸法や温熱環境などの基本的な数値を理解すること、居住環境整備の方法を提案できること、その必要性の根拠を説明できることである。成績の評価基準は、生活に必要な環境条件の理解度である。単元ごとのまとめのテストやレポートを課し、最終にはまとめの課題を実施する。基本的な事柄を理解することが出来ていると判断された場合、単位を認定している。

4 授業改善の方法

学生から「声が小さい」「聞こえない」という意見がある。もう少しゆっくり話すこと、マイクの使用を検討したい。板書や図表のプリント配布を中心に進め、学生が自分の手で書くことで学習が深まるようにしている。講義内容の単元毎にまとめの小テストをしているが、毎回の講義時に学生の理解度合いを把握のため課題を与え、より深い理解につなげたい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 小木曾 真司 **職名** : 助教 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 高齢者に対する支援と介護保険制度 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1215 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 22名 **回答者数** : 18名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	17	-	1	14	-	-	3	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.78		■ ◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 5.6%	30分 程度 22.2%	ほとんど していない 72.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 11.1%	30分 程度 22.2%	ほとんど していない 61.1%	無回答 5.6%	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.06		■ ◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 16.7%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.00		■ ◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 11.1%	注意 していた 55.6%	ある程度 注意 していた 33.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	3	3.94		■ ◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.94		■ ◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.06		■ ◇				

1 授業の概要、特徴等

少子高齢社会の概況と、関連する社会保障についての基礎的理解をとおして、介護保険制度の沿革と、サービス実態を理解する。また、その主たる担い手である介護支援専門員の実際の実務に触れられるような演習を取り入れた。今後の高齢者福祉を取り巻くべき福祉サービスをイメージしていく。

2 アンケート結果に対する見解

専攻科の評価が全体的に高いことは、前期で介護保険制度に関する講義を担当していることが要因としてあげられる。事前・事後学習について、大半の学生が取り組んでいないことは、注視する。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

多岐に渡る介護保険制度の理解の中でも、実際の介護福祉士や相談業務にまつわる内容について、大枠で捉えることはできたのではない。その反面、制度の細かいところまでの理解は不十分であったことは、ミニテスト等を通じて感じた。シラバスに記載している評価基準に沿った成績評価の結果、1名の不合格者があった。当該学生は、出席点と提出物の未提出による減点が大い。

4 授業改善の方法

授業の中にミニテスト等を実施し、学生の理解度を把握し、それに応じた細かな解説を行う。また、事前事後学習の動機づけとなるよう、新聞記事や身近に感じられる事例の活用を検討しながら、適宜課題も課す。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 小槻 智彩 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活科学科
科目名称 : こころとからだのしくみ I **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1550 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 17名 **回答者数** : 16名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	2	-	-	14	-	-	2	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.81		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 6.3%	60分 程度 -	30分 程度 31.3%	ほとんど していない 62.5%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 12.5%	30分 程度 31.3%	ほとんど していない 56.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.44		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 18.8%	適切 であった 75.0%	やや 低かった 6.3%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.38		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな か つ た 25.0%	注意 してい た 25.0%	ある程 度注 意し てい た 31.3%	あ ま り 注 意 し な か つ た 18.8%	全 く 注 意 し て い な か つ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.00		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.88		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.06		■				

1 授業の概要、特徴等

介護サービス提供における心理的側面の配慮ができることを目標に、こころのしくみの基礎を理解する授業を行った。特徴としては、(1)受講生が自身の経験を振り返ったり、自らが高齢になったときの状況を想像しながら考えるなど、身近な例からこころについて理解できるような課題を取り入れた点さらに(2)ビデオ教材を取り入れ、こころのしくみに注目して鑑賞することで理解の定着を図った点が挙げられる。また、(3)授業の最初と最後に確認問題を行い、定期的に復習できるようにした。

2 アンケート結果に対する見解

具体例から考えることで理解を深め、現場での実践につなげることを目標としてビデオ教材を取り入れたが、受講生にとっても理解に役立つものとなり、効果があった(評価項目④⑥)。一方、受講による問題意識や関心の向上、将来への役立ちに関しては全体平均よりやや低かったため(評価項目⑨⑩)、目標としていた実践にまでは十分につながっていなかった。また、授業毎に行っていた確認問題は、他の科目に比べて課外学習の時間を促進させるものにはなっていなかった(評価項目②③)。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

(1)こころのしくみの基礎を理解すること、(2)介護サービス提供における心理的側面の配慮のような実践が行えること、を授業の目標として設定し、アンケートや試験の結果から概ね達成できたと思われる。成績評価は①毎回の講義内小レポート(授業中に行った課題の提出)と②筆記試験(語句・正誤問題による理解度の確認、記述問題による実践につながる問題意識の確認)から行い、①②が偏りなく基準を満たしている受講生に単位認定を行った。

4 授業改善の方法

まず、(1)実践につながる問題意識や関心の向上を図るために、使用するビデオ教材の選定を改める。今年度は主に理解を定着させることを目的として身近なものを題材にしたが、今後は介護現場と直接関連するもの、社会的な問題などを含めたものも取り入れていく。また、(2)課外学習の時間を増やすために、毎授業で行う確認問題に、受講生自身が授業に関連して調べてきたことを問うようなものを加えていく。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 森田 婦美子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活科学科
科目名称 : こころとからだのしくみⅢ **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1560 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 15名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	-	-	-	14	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.93		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 21.4%	30分 程度 21.4%	ほとんど していない 57.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 14.3%	30分 程度 35.7%	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.36		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 14.3%	適切 であった 85.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.43		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 14.3%	注意 していた 57.1%	ある程度 注意 していた 28.6%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.15		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.15		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.14		■				

1 授業の概要、特徴等

解剖や生理学といった教科がベースになっている科目であるため、基礎理解を深めることから、授業進行をおこなった。当然専門性が高いだけに、理解するためには受け身ではなく学生の努力は必要である。しかし、学生の学習への動機付けに至らないことも多く、伝えることが多い内容だけに、学生の参加できる学習スタイルの検討も必要であると考えられる。教科書を中心に行間を埋める不足を、プリントにし学習を進めていった。

2 アンケート結果に対する見解

今年度の学生は比較的学習に参加している学生もあった。例年なら座っているだけというスタンスが大きく、発言のない学生もいたが、今年度は理解したいと欲するが学生もいたことで、学習しやすい雰囲気があった。(自由記述から)

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業目標達成は個人差が大きく達成できた学生とそうでない学生では成績にもそれが表れていた。介護福祉士になるという思いの違いが成績に反映されていると考えられる。

4 授業改善の方法

グループワーク等を導入したいが、学生数が少なくディスカッションも難しい。しかし学生が自ら考えられるように導入していきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 小木曾 真司 **職名** : 助教 **所属** : 生活科学科
科目名称 : コミュニケーションの基本 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1250 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 15名 **回答者数** : 15名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	15	-	-	-	15	-	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.80		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 13.3%	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 13.3%	30分 程度 20.0%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 13.3%	適切 であった 86.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.53		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 6.7%	注意 していた 40.0%	ある程度 注意 していた 53.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	3	3.80		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.60		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.40		■				

1 授業の概要、特徴等

コミュニケーションの基礎的な理解を基に、演習を交えながら体感的に学べるよう介護におけるコミュニケーションへ展開した。抽象的な内容も多いため、グループディスカッションにより学生の意見を共有を図った。

2 アンケート結果に対する見解

板書の文字が見づらいとの意見が多く、改善の余地は大きい。また、ノートに書き写すことに集中してしまう面もあるため、教授内容を焦点化する必要がある。理解度に関しては、授業のみでの理解を得ることは難しい科目であり、意欲関心を高められるかが重要であるので、46.7%にあたる中間層に対するアプローチは課題である。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

援助的コミュニケーション能力の習得については十分な事後指導(介護実習等)が必要であるが、そのための基盤づくりにはなつたと考えられる。シラバスに記載した評価基準に沿って評価を行った結果、不合格者1名であった。当該学生は課題提出や自己表現における評価が低く減点の対象が多かった。

4 授業改善の方法

板書を丁寧に書くことや、補足説明を充実させる。抽象的な内容については、問題提起をして、考えるきっかけをつくり、学生の思考過程を支援できるような工夫を行う。また、学んだことが実際の現場でどのように活用されるのか、イメージできるような確かな展開ができるよう可視化したり視聴覚教材を活用することで、前述の中間層への意欲喚起につなげる。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 酒井 宏和 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 社会福祉施設経営 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1605 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 16名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	9	-	-	3	1	-	4	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.89		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 11.1%	ほとんど していない 88.9%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 11.1%	30分 程度 11.1%	ほとんど していない 77.8%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.78		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 11.1%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 55.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.78		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 33.3%	注意 していた 22.2%	ある程度 注意 していた 33.3%	あまり 注意して いなかった 11.1%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.56		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.44		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.56		■				

1 授業の概要、特徴等

現代社会における施設経営について理解を深める施設経営における理念を中心に据え、その必要性について理解する施設経営の理念について内容を把握する。社会福祉施設で就業する前に、その後のキャリアアップの上で職員として知っておくべき施設運営における理念の重要性や基本的なマネジメントについて理解を深めることができる。介護現場でもマネジメントの視点を持つことが重要であることをテキストを使用した座学に留まらず、事例を取り上げグループワークを通して主体的に学ぶ機会を設ける。

2 アンケート結果に対する見解

今年のアンケート結果はまだ得ておりませんが、昨年のアンケート結果からまだ自分の指導スキルについて磨いていく必要性を感じている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

社会福祉施設で就業する前に、その後のキャリアアップの上で職員として知っておくべき施設運営における理念の重要性や基本的なマネジメントについて理解を深めることができることを目標に設定している。アセスメント方法として授業中の質疑応答や授業の15分前に行う小テストの内容を平常点(出席及び受講姿勢、40%)とした。また、最終回の「ふりかえりとまとめ」で実施する筆記試験において、これまでの授業で得た知識の確認とその応用力を評価し、理解度(60%)とした。これらの総合点を100点満点の評価点とし60点以上で単位認定とした。

4 授業改善の方法

初年度から毎回実施している小テストの裏側スペースを利用して授業評価のアンケートを実施しており、細かな要望に対して応えるように努めている。今後は、グループワークの割合を高め、自他の異なる考えを擦り合わせ最終的にKJ法を活用しながら結論にまとめ上げていく過程を通してチームワークを学ぶ機会を作りたい。また、現場の事例や介護の先端的な考え方、手法について紹介したり、介護現場の課題を仕組みの改善を通して問題解決する手法を学んだりする機会を設けたい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 村本 早希 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活科学科
科目名称 : セラピー概論 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1230 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 17名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	13	-	1	13	-	-	-	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.79		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 7.1%	60分 程度 7.1%	30分 程度 14.3%	ほとんど していない 71.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 7.1%	60分 程度 7.1%	30分 程度 21.4%	ほとんど していない 64.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.14		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 42.9%	適切 であった 57.1%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.00		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 7.1%	注意 していた 50.0%	ある程度 注意 していた 35.7%	あまり 注意して いなかった 7.1%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.79		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.79		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.79		■				

1 授業の概要、特徴等

東洋医学の基本的な考え方や診断方法などを理解し、介護の現場や自身の健康管理に役立てることができるようになることを目的とした授業内容。東洋医学の基本を理解することにより、利用者、高齢者の健康状態の変化に気づき簡単なツボやアロマの効果による予防や症状の緩和、食養などを取り入れていくことができるようになる。また、介護者自身の体調の異変にも対応でき、管理も行えるようになる。日常や介護の現場と照らし合わせ、よりわかりやすく、身近な知識として取り入れていけるような授業を心がけた。

2 アンケート結果に対する見解

セラピー中心の内容の中で、自分の将来に役立つと思う内容とと思っている生徒が多いことはよかった。そう思ったからの関心の高さだと思う。スライドが変わることが早いこと、レベルが高いと感じた生徒が多いことは関係のあるように思う。少し内容を詰め込みすぎたのか。もう少し生徒の様子を見ながら、理解度を確認しながら進めていくようにする。全体的には授業中の雰囲気もよく、興味を持ち、質問などのやり取りとともに進んでいくことができた。そのことがマイナスな回答が少ない結果となったと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

4 授業改善の方法

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 武田 卓也 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 地域福祉の理論と方法 **科目群** : 生活未来科 生活福祉コース 専門教育科目
授業コード : 1715 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	5	-	-	-	-	-	5	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.60		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 100.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 100.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.40		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 60.0%	適切 であった 40.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.40		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意す る必要 はな かつ た 40.0%	注意 してい た 40.0%	ある程 度注 意し てい た 20.0%	あま り注 意し てい なかつ た -	全 く注 意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.20		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.80		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.00		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

授業では、テキストを中心にパワーポイントを使用しながら授業展開を行った。また、自らの住んでいる地域の紹介をレポート課題に出し、改めて住んでいる地域に目を向け、抱えている課題を学生間で議論し、学生個々が自らの考えを述べる場をつくった。また、発表の機会をもうけ、学生の考える視点、考える幅を広げ、深めるように努めた。

2 アンケート結果に対する見解

授業前の小テストの実施や、授業の後にレポート課題を課し、発表につなげるようにしたが授業前後の自主的学習に繋がっておらず、小テストの質、課題の量と質を見直し、今後学生が事前学習、事後学習につながるように改善を図りたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

テキストに沿った学びは予定通り終了した。地域福祉の基本的な考え方、地域福祉の主体と対象、地域福祉にかかる組織、団体および専門職の役割、ネットワークの意義と方法、地域福祉の推進方法についての基礎的な知識は伝えた。しかし、「実際」という側面では、インターネット、写真、パンフレット等を使いながら具体的に学ぶ機会を増やしたが、十分に理解できる所まで至らず課題が残った。成績評価基準は客観的にシラバスに準じて単位認定を行った。

4 授業改善の方法

学生は授業内容に難しさを感じていること、授業前後の学習がアンケートでは十分に繋がっていないことから、授業前の小テストの回数を増やすことで学習内容の理解度を確認しながら展開する。また、小テストを実施することで事前、事後学習にもつながると考える。また、学習の理解を深める為にも視聴覚教材や体験、対話型の授業展開を増やす。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 飯田 恵子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 育児学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2310 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 24名 **回答者数** : 17名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	12	5	-	-	-	17	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.76		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 -	30分程度 5.9%	ほとんど していない 94.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 -	30分程度 17.6%	ほとんど していない 82.4%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.24		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 5.9%	やや高かった 17.6%	適切であった 70.6%	やや低かった 5.9%	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.18		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度注意していた	注意する必要は なかった 35.3%	注意していた 29.4%	ある程度注意 していた 35.3%	あまり注意して いなかった -	全く注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.24		■ ◆				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.13		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.50		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

育児学は将来、母親・父親になるであろう学生、また栄養士、管理栄養士として保育園や幼稚園に就職を考えている学生を対象に開講している。育児(小児栄養を含む)の知識・技術においては、科学的根拠を理解しやすいように補助教材等を使用しながら理解を深めるように行い、演習を踏まえて習得できるように行っている。また生命観、母性・父性観を養うために、『いのち』とは何か、親として、栄養士としての子どもとの関わりとは何かを常に学生に問いかけながら行っている。

2 アンケート結果に対する見解

学生の評価は、比較的高評価であった。学生の評価が高かったのは、教育的効果を得られるように視覚教材を用い、学内で演習が可能な項目においてはできる範囲で演習を行い、学生自身の母性・父性感を培い、グループダイナミクスを發揮できるように参加型の講義を行ったため、学生は講義の時間を充実することができたためではないかと考える。しかし実際に講義の内容が活用されるのは、学生自身が親になったときであり、そのときに応用できるように意識付けを行うために、課題として学生自身の現在の母性・父性感について論述し、今後どのようにそれらを培っていくか学生に喚起を行った。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業目標を常に意識し、また学生個人の母性・父性観、生命観を養うことを念頭に置きながら授業を行った。また毎回の講義に振り返りシートを用い、学生の学びや疑問にすぐに答えられるように工夫を行った。成績評価においては、試験と課題レポートを課し、相対評価を行った。

4 授業改善の方法

授業の要点を講義内容に添って整理したプリントを配布し、理解を深められるように行っていた。しかし育児の知識や技術の習得については、学生個人の意欲や興味が重要なポイントになるため、いかに意欲や興味を引き出せるように関わっていくかが大切であると考えている。今後は重要なポイントにおいては具体的にイメージできるように視覚教材を用い、演習を行うことによって意欲を引き出すように行っていきたいと考えている。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 松本 範子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 運動生理学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2130 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 44名 **回答者数** : 38名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	38	-	-	-	36	-	-	-	-	2

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.6%	90分 程度 5.3%	60分 程度 -	30分 程度 13.2%	ほとんど していない 78.9%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 5.3%	90分 程度 2.6%	60分 程度 2.6%	30分 程度 15.8%	ほとんど していない 73.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.95		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 13.2%	やや 高かった 55.3%	適切 であった 31.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.34		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意する 必要は なかった 2.6%	注意 していた 52.6%	ある程度 注意 していた 36.8%	あまり 注意して いなかった 5.3%	全く 注意して いなかった -	無回答 2.6%	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.46		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.66		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.86		■				

1 授業の概要、特徴等

本授業は、生体のしくみと構造について学び、身体の生理機能がどのように連携し、運動を可能にしているか学修することを目的としている。運動負荷時の身体変化について、神経、筋肉など各器官の働きを自らの身体で確認しながら、栄養学・生理学・トレーニング学の観点から総合的に学び、実際の運動場面で活用できる知識を得るために、教科書や資料配布により、理解できるよう取り組んだ。

2 アンケート結果に対する見解

生体機能による専門的ワードが多かったため、できるだけ復習を反復しながら授業を行い、学生の理解については、一つ一つ確認しながら進めていった。内容の多い日は、少し早かったように思う点は、アンケート内容のとおりである。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

運動に関するメカニズムの理解は達成できたものとする。成績評価はシラバスのとおり出席と試験によって判断した。

4 授業改善の方法

授業改善については、その年の学生の雰囲気や理解力に合わせて変更をかけているため、本年度を参考にする予定はない。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 須谷 和子 **職名** : 講師 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 栄養指導論実習 I **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2210 **授業形態** : 実習 **受講者数** : 37名 **回答者数** : 30名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	30	-	-	-	-	30	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.13		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 10.0%	30分程度 6.7%	ほとんど していない 83.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 6.7%	60分程度 6.7%	30分程度 10.0%	ほとんど していない 76.7%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.30		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 13.3%	やや高かった 36.7%	適切であった 50.0%	やや低かった -	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.27		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要は なかった 30.0%	注意していた 43.3%	ある程度 注意していた 23.3%	あまり 注意して いなかった 3.3%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.17		■				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.20		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.37		■				

1 授業の概要、特徴等

栄養指導をするにあたり、必要な知識(食生活指針、食事バランスガイドの概要、荷重平均栄養成分計算、食品群の特徴、献立作成、パソコンを使用した栄養価計算、一週間の献立作成、献立評価食品比率の算出など)を理解し、献立の作成ができることを最終目標としている。特に2回生になると給食の献立作成に大切な内容なので、学生が「難しい」と感じている食品の取り合わせや分量、料理内容に適した食材の分量を把握してもらうため、最後の授業時に秤量実習を行った。

2 アンケート結果に対する見解

栄養士として現場で仕事をするうえで1週間分の献立がスムーズに立てられることは必須条件である。そのため栄養価計算からはじまり、手書きの献立作成、パソコンの「栄養君」ソフトを用いた作成と段階を踏んで説明を行っている。学生の習熟度によって個別に説明を要する学生もあり、十分な対応ができなかったことは大いに反省している。献立の合計が給与目標量に近づけない場合でも、材料の分量の見直しやアドバイスを適宜入れた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

目標達成は栄養君を使って1週間分の献立がスムーズに立てられるようになることである。成績評価基準は授業態度30%、課題提出50%、小テスト20%とした。小テストについては栄養価計算等を実施し、栄養士として必要な計算力を身に付けてもらい確認を行った。コースでカリキュラムを組んでいる基礎ゼミナールとも連携をとり、計算力の定着を図った。献立作成と個人の立てた献立を食品バランスガイドの「コマ」で作成し、簡単な栄養媒体をつくることまでを課題とした。個人差はあるものの、しっかりと取り組む姿勢が見受けられた。

4 授業改善の方法

今年度は授業計画も見ながら、「給食実務論」担当教員と連携をとり、内容が重なる食品構成基準や献立作成の基礎の部分を重点的に指導した。アンケートからこの取り組みの効果はうかがえないが、反復して説明をすることで、学生の理解度が高まったのではないかと考える。栄養士になるための授業は必ず重なる部分があり、それがどこにあるか、どの部分を要点として押さえたら理解が早まるか、を知ってほしいために試みたが、さらに効果が出るように、来年度の授業にも取り入れて改善をしていきたい。また、その理解度が数値化され学生にも実感してもらえるように工夫したい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 李 仙恵 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 社会福祉概論 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2110 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 38名 **回答者数** : 35名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	34	1	-	-	-	34	-	1	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
		1	2	3	4	5		
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.97	■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 - 90分程度 2.9%	60分程度 -	30分程度 14.3%	ほとんど していない 82.9%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 5.7%	90分程度 2.9%	60分程度 -	30分程度 14.3%	ほとんど していない 77.1%	無回答 -
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.14	■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に 高かった -	やや 高かった 22.9%	適切 であった 74.3%	やや 低かった 2.9%	非常に 低かった -	無回答 -
授業の 進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.11	■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 17.1%	注意 していた 48.6%	ある程度 注意 していた 25.7%	あまり 注意して いなかった 2.9%	全く 注意して いなかった 2.9%	無回答 2.9%
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.11	■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.63	■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.97	■				

1 授業の概要、特徴等

本授業は社会福祉の知識と社会福祉援助技術など、社会福祉の基礎を習得することを目的としていた。とりわけ、今日の社会福祉問題に焦点を当てた学習を通して、社会福祉問題を総合的・包括的に理解できるようになることを目指した。社会福祉の価値の中心となる人権と人間の尊重を基本的視点として、社会保障や生活保護などの社会福祉問題の理解を深めることとした。

2 アンケート結果に対する見解

学生の理解度を配慮しながら、適切なレベルの授業内容や説明を心がけ、この授業を受けて新しい知識や技術が得られ、問題意識や関心が高まるように授業を進めてきた。学生も課された課題やレポートに積極的に取り組んでいて、授業の狙いをよく理解していたと考えられるアンケート結果だと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

成績の評価は出席状況、受講態度(30%)、レポート(30%)、筆記テスト(40%)から総合評価を行った。各授業ごとに課されたコメントカードから授業の理解度や問題意識を評価し、レポートから論理的思考や課題の達成度を評価した。加えて、筆記テストを合わせて総合的に評価し、単位を認定した。

4 授業改善の方法

学生自身が興味のある社会福祉問題を決めて、自主的に取り組んでいくことをサポートしてあげた方が新しい知識や技術が得られ、問題意識や関心が高まると思われる。学生が自分の将来に役立つように自ら取り組めるように事前学習や事後学習を増やせるようにしたい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 池内 ますみ **職名** : 教授 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 食品の官能評価・鑑別論 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2415 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 20名 **回答者数** : 16名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	16	-	-	-	16	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.88		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 6.3%	60分 程度 6.3%	30分 程度 12.5%	ほとんど していない 75.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 6.3%	60分 程度 6.3%	30分 程度 18.8%	ほとんど していない 68.8%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.13		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 31.3%	適切 であった 62.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 6.3%	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.50		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 37.5%	注意 していた 31.3%	ある程度 注意 していた 25.0%	あまり 注意して いなかった 6.3%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.25		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.13		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.25		■				

1 授業の概要、特徴等

食物栄養コースの選択科目の一つで、フードスペシャリスト資格の中心的科目である。フードスペシャリストが活躍する場を想定して、そこで扱う食品の品質を的確に判断するための知識を身に付けることを目的とする。2回生後期に設定されており、12月中旬に実施される認定試験を意識しての授業となるため、過去に実施された認定試験に取り組みながら、合格を目指す。

2 アンケート結果に対する見解

履修学生のほとんどがフードスペシャリスト資格取得を希望しているため、認定試験合格という目標があるため、授業への取り組みは概ね意欲的である。人数もそれほど多くないため授業はスムーズに進められた。一部資格と関係なく卒業に必要な単位を補うための学生もあり、出席状況にも差が見られた。試験対策に意識が集中するため、この授業で得た知見を将来どのように役立てるかの観点が授業の進め方で少し不足していたと思われる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

認定試験の合格率では15名の受験に対して13名が合格しており、合格率87%という数字は全国的な合格率が81.8%を上回ったことから、ある程度目標達成ができていると判断している。また、今年度から始まった上級資格の「専門フードスペシャリスト」認定試験は3名の受験者全員が合格したことは快挙である。受験を希望しない、あるいは受験要件が揃わない学生については、評価基準を同一にしにくいと感じている。

4 授業改善の方法

この授業で取り扱う内容は、資格取得の有無にかかわらず実際の食生活で役立てることができるため、実際の生活の中での具体的事例など盛り込みながら、学生が興味を持てるよう工夫する。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 三浦 さつき **職名** : 准教授 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 生理学実習 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2125ab **授業形態** : 実習 **受講者数** : 40名 **回答者数** : 35名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	35	-	-	-	35	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.97		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 2.9%	60分 程度 2.9%	30分 程度 17.1%	ほとんど していない	77.1%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 2.9%	60分 程度 -	30分 程度 20.0%	ほとんど していない	77.1%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.34		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 5.7%	やや 高かった 40.0%	適切 であった 54.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.17		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かつ た 5.7%	注意 してい た 68.6%	ある程度 注意 してい た 25.7%	あまり 注意し てい なかつ た -	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.14		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.11		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.20		■				

1 授業の概要、特徴等

栄養士に必修の授業であり、1回生で学ぶ「人体の構造と機能Ⅰ・Ⅱ」の解剖学について、自分の体などを使って理解を深める実習である。テーマによって、自分の唾液や尿を使って反応をみる実験を行ったり、マウスの解剖、味覚や感覚機能を見る検査を行ったりしている。翌週にレポート提出を課す実験・実習の科目が多いが、授業内において実習内容のプリントを記録した上で回収している。さらに、解剖学の知識に関する課題プリントを用意して、実習中に解いたものを解説し、復習時間をとったうえで最後に確認テストを行っている。

2 アンケート結果に対する見解

前述のように、プリントは実習当日に回収するため、事前・事後の学習については、あまり強制せずに授業時間に集中して取り組むように指導しているが、1回生の知識が十分に身につけていない学生も多いことから、事前事後の学習も促して知識の定着を図り、実習を充実したものとするようにつなげたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

解剖は苦手意識をもつ学生が多い分野であるが、自分の体を使ったりして実習を行う中で、興味深く取り組む学生が多い。感想の記述を見ても、個人個人で視点を持って、いろいろな発見をしている学生が多いことから、目標はおおむね達成しているといえる。実習にもかかわらず、欠席者が多い回があったため、出席を徹底していきたい。

4 授業改善の方法

実習が長引いたときに復習時間が少なくなるため、自由記述に「見直す時間が足りない時がある」と書かれていたが、今後は時間配分など、学生の進度も見ながら気を付けていきたいと思う。「解剖不要」とも書かれていたが、ヒトの体を学ぶためには、実物を見るのが一番の理解につながるため、やはり実施していく予定である。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 島村 知歩 **職名** : 准教授 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 調理実習Ⅱ **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2260ab **授業形態** : 実習 **受講者数** : 37名 **回答者数** : 29名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	29	-	-	-	-	29	-	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.14		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 10.3%	60分 程度 3.4%	30分 程度 10.3%	ほとんど していない 75.9%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 3.4%	90分 程度 10.3%	60分 程度 24.1%	30分 程度 17.2%	ほとんど していない 44.8%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.21		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 10.3%	やや 高かった 31.0%	適切 であった 48.3%	やや 低かった 10.3%	非常に 低かった -	無回答 -		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.41		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 24.1%	注意 していた 55.2%	ある程度 注意 していた 13.8%	あまり 注意して いなかった 6.9%	全く 注意して いなかった -	無回答 -		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.17		■					
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.38		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.72		■					

1 授業の概要、特徴等

調理実習Ⅰに引き続き、日本料理、西洋料理、中国料理の特徴、基礎を学ぶ。後期開講のためクリスマスやお正月などの行事食にも取り組む。前期の調理実習Ⅰは、説明はできるだけ作る内容を中心にしてきたが、後期になると学生も作るのにも慣れ、時間配分もできるようになってきたので、説明では、同じ料理でも大量調理で実施する場合の方法や対象者など様々な条件によつての応用の仕方なども加えている。また、より安全においしく食べるために、盛り付けや衛生面の配慮についても実習時に補足している。

2 アンケート結果に対する見解

授業時の受講態度は良かったので授業は非常にやりやすかった。授業後は、毎時レポートを課しているの、各人丁寧にレポート作成をし、振り返りも行っているが③の回答は「ほとんどしてない 44.8%」で学生は復習というより課題としての認識しかないようである。事前の勉強は、「ほとんどしてない」が75.9%だったので、調理の内容を伝えるだけでなく具体的な学習方法を示す必要があると考える。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

料理様式の基礎、実習を通して食品の衛生的な取扱い、安全なものにするための操作方法、食品や料理の組み合わせ方、調理器具の活用方法などを実践で修得する。また、時間内に計画的に効率的に作業をする方法を学び、グループで作業に取り組むことにより協調性やコミュニケーション力も回数を重ねることで体得する。成績評価は受講態度(実習時の身だしなみ、積極性、協調性、計画性、またレポートにおける作業についての振り返りや考察を含む)40%、実習レポート・課題提出40%、実技試験(条件に従つての野菜の切り方、ホワイトソース作り、調味のための%計算)20%で評価した。

4 授業改善の方法

調理実習Ⅰの「学生による授業アンケート」に料理の出来上がりがイメージできないというコメントがあったので、学生が初めてだろうと思われる料理は出来上がりイメージの写真を見せるなど配慮した。学生の調理技術や食に関する知識は非常に差が大きいため、教員からの一方通行では、皆が十分満足できる授業は難しい。同じ料理でも、個々に目標レベルを設定してクリアできるような基準を作るなど工夫したい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 毛受 真由美 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 臨床栄養学 **科目群** : 生活未来科 食物栄養コース 専門教育科目
授業コード : 2185 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 44名 **回答者数** : 37名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	37	-	-	-	37	-	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.03		◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.7%	90分 程度 2.7%	60分 程度 2.7%	30分 程度 29.7%	ほとんど していない 62.2%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 2.7%	90分 程度 5.4%	60分 程度 -	30分 程度 35.1%	ほとんど していない 56.8%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.54		◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 2.7%	やや 高かった 40.5%	適切 であった 56.8%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.43		◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 8.1%	注意 していた 67.6%	ある程度 注意 していた 21.6%	あまり 注意して いなかった 2.7%	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.41		◇				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.11		◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.49		◇				

1 授業の概要、特徴等

栄養ケアのかかわりが大きい疾病を中心に、病因や臨床像、予防や治療について概説した。教科書の記述の中で、特に重要と思われるところを要約して、レジュメを配布し、難解な医学用語や内容も理解しやすいように努めた。

2 アンケート結果に対する見解

興味を持って授業に臨んでいた学生が多くうれしい。授業の復習にかかる時間は期待以上で、多くの学生が頑張ってくれたと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業全体を3回に分け、筆記試験をおこなった。一定の習熟レベルに達するまで、繰り返し試験を行うことにより単位を認定することができた。

4 授業改善の方法

筆記試験のスケジュールと実習が重なって勉強が大変だったという意見があった。次年度は毎授業ごとに復習する時間を設け、まとめの事前学習を短時間でできるように工夫したい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 井上 彩 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活科学科
科目名称 : イラスト・画像処理 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3405 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	4	-	-	-	-	-	4	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.25		■■■■■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 100.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 100.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.75		■■■■■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 25.0%	適切 であった 75.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.50		■■■■■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 75.0%	注意 していた 25.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.75		■■■■■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■■■■■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.00		■■■■■				

1 授業の概要、特徴等

デザインソフト(Photoshop/Illustrator)の基本操作を身につけながら、それを応用して与えられた各課題(カレンダーデザイン、パスポートデザインの制作など)に取り組みます。また、毎回違ったテーマに沿ってカラーチップを作成するワークショップを行うことで、個々の使う色彩の幅や可能性を少しずつ広げていきます。課題が完成した段階で合評を行い、それぞれのコンセプトやアイデア、デザインを通して課題への感想を共有します。

2 アンケート結果に対する見解

遅刻、欠席が殆ど無く、授業中も積極的に真面目に取り組んでいた姿が非常に印象的です。アンケート結果は[受講態度]をはじめとし、他の評価項目も高く評価されているようでした。[授業の進め方]の項目⑧「学生の理解度を配慮しながら授業を進めていたと思いますか」に関しては、ソフトの機能についての理解や操作を進めるスピードには個人差があるため、多少不安に思いましたが、生徒たちは「ある程度そう思う」と感じていたようで安心しました。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

イラスト・画像処理の授業の目標は、デザインを通して企画力、創造力、表現力、プレゼンテーション能力を少しでも高めることでした。授業の回数を重ねるごとに、それぞれの生徒の個性やコンセプトへのこだわりが作品にも現れるようになりました。取り組む課題は同じですが、仕上がったデザインは生徒たちそれぞれがゼロから考えて創った、全く違うものでした。誰かの模倣をするのではなく、個々の表現を探究した点を高く評価したいと思います。

4 授業改善の方法

卒業後に生徒たちが進む道はそれぞれ大きく異なると思いますが、どのような職業に就いてもゼロを1に変える発想力、創造力を大切にしたいです。視覚を通じたイメージは、物事を理解しようと思った際にわたしたちを大いに助けてくれます。これから社会で何かを伝えたいと思った時に、この授業で身につけた方法をひとつの表現手段として思い出してもらえれば幸いです。そのためにも、実践的な商品デザイン企画のデモンストレーションをする回数を出発点だけ多く増やしたいと思います。また、回数を重ねるだけでなく、1つ1つの課題への丁寧な取り組みも大切にしたいと考えています。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 谷村 真理 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 経理実務Ⅱ **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3170 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 3名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	3	-	-	-	-	-	3	-	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
		1	2	3	4	5			
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00	■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 90分程度 60分程度 30分程度	-	-	-	33.3%	66.7%	無回答
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分以上 90分程度 60分程度 30分程度	-	-	-	33.3%	66.7%	無回答
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.67	■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや高かった	非常に高かった やや高かった 33.3%	33.3%	33.3%	-	-	-	無回答
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.33	■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度注意していた	注意する必要はなかった 33.3%	注意していた 33.3%	ある程度注意していた 33.3%	あまり注意していませんでした -	全く注意していませんでした -	無回答	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.33	■					
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.00	■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	3.00	■					

1 授業の概要、特徴等

後期では、前期に引き続き簿記の講義を行うとともに、実務で役立つ数字の読み方や経営分析の仕方を身につけてもらうことに重点を置いた。特に後半では、興味のある企業の分析及びプレゼンテーション(グループワーク)などを行い、座学にとどまらない講義を心掛けた。また、1回生ということもあり、PPTの扱いに慣れていない学生もいたため、PPTを使ったプレゼンノウハウについても指導した。

2 アンケート結果に対する見解

概ね妥当と考える。モチベーションや理解度の差が極めて大きかったことが、好評価と悪評価の両極端に分かれてしまった要因と分析している。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

一年を通じて、「実務に役立つ経理の感覚」を身につけてもらうことに重点を置いたが、完全に腑に落としてもらえたとはいえないまでも、数字感覚を身につけてもらうことはできたと考える。特に最後の企業分析では、企業のwebサイト等を熱心に読み込み、精度の高い分析を行った。

4 授業改善の方法

理解度の個人差が大きい分野であるが、今年度は特に格差が大きかった。こういった事態への対応として、引き続きそれぞれの理解度を把握しながらきめ細かなフォローをしていくとともに、学生の興味対象を汲み取りながら、臨機応変に重点ポイントを変更していきたいと考える。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 登坂 一博 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活科学科
科目名称 : 事業計画論 **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3137 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 7名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	2	4	1	-	-	-	7	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.14		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 14.3%	60分 程度 -	30分 程度 28.6%	ほとんど していない 57.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 14.3%	60分 程度 -	30分 程度 28.6%	ほとんど していない 57.1%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.14		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 28.6%	適切 であった 71.4%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.86		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 57.1%	注意 していた 42.9%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.86		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.86		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.43		■				

1 授業の概要、特徴等

事業とは、事業計画とは何かをアントレプレナーシップ論やマーケティング戦略論及び講師の実体験(起業)等を通してリアル
 感覚で学んで貰うように講義を進めた。受講生が企業するならば何をしたいかのテーマ(アイデア)出しを、ブレインストーミ
 ングという企業で実際に行われている手法を使って実施した。受講生自身が考え出したテーマを具体化(事業化)するための事
 業計画策定のベース理論として「まんがでやさしくわかる事業計画書(JMAM)」を利用し、予習はまんが部分で、講義の説明は文
 章でと、より理解度を深める方法を採用した。

2 アンケート結果に対する見解

受講生が1年生で学んだ経営、マーケティング、事業企画(収益計画)等総合的な理解を確認しながら、物事を論理的に考え、
 自身が一番実現したいテーマを分かりやすく記述し、相手に伝えることを主に講義を進めた結果、私の自己評価と学生の評価に大
 きなギャップはない。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

受講生が、自分の事業化テーマに関する考え・想いを自分の言葉で表現できるように事業計画書作成スキルを身につけ、磨いて
 もらいたい。・・・という当初の目標はある程度は達成できていると思う。講義を休まずに出席(学び考える癖をつける)し、そ
 の講義中の受講態度はもちろんのこと、各自の事業計画の作成プロセス等を主に成績評価基準とし、最後に「事業計画のプレゼン
 テーション」を実施し総合的に理解力・応用力を判断し単位認定を行った。

4 授業改善の方法

最終プレゼンテーションの事業計画書が構成として盛りだくさんだったので受講生が多少混乱していたようだ。今後は最終発表
 の構成は最低限事業化に必要な項目に絞込み、受講生がよりリアルな感覚で事業計画を策定できるような講義の内容に変更した
 い。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 東出 加奈子 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活科学科
科目名称 : ゼミナールⅡ (ビジネスキャリア) **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3920 **授業形態** : 演習 **受講者数** : 9名 **回答者数** : 7名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	7	-	-	-	-	-	7	-	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.29		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 14.3%	60分 程度 -	30分 程度 42.9%	ほとんど していない 42.9%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 14.3%	60分 程度 -	30分 程度 42.9%	ほとんど していない 42.9%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.29		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 14.3%	適切 であった 85.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.43		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意す る必要 はな かつ た 42.9%	注意 してい た 42.9%	ある程 度注 意し てい た 14.3%	あま り注 意し てい なかつ た -	全 く注 意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.57		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.29		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.43		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

現代の社会情勢や経済動向を踏まえ、将来、職業人として適応するための基礎を身につける内容である。自らの職業観や勤労観といった概念の形成を前提に、広い視野を持ち、出来るだけ精度の高い情報の収集と活用を身につけることを目指した。とくに新聞記事を取り上げ、自らの意見を述べるができるよう発言の機会を設け、議論を通して客観的に問題解決のための技法を習得できるように進めていった。

2 アンケート結果に対する見解

各項目において授業で目指していた内容と大幅に差がなく、おおむね良い評価であった。将来に役立つ内容であったと思う項目については、特に力を入れた点であり熱意を伝えることができたと考える。一方、受講生の理解度を配慮しながら授業を進めることについて、留学生にも補足説明しつつ進めていくことも心がけたが、議論を十分にできなかった点があげられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

前半は、昨今の社会においてさまざまな情報の活用方法と特徴を提起し、各自が意識的に情報の範囲や深さを追求できるように進めていった。後半では、受講生が各自選択したテーマを提起し、その内容について自らの意見を述べるとともに、受講生全員でさまざまな問題点を意見交換しあう機会を設けた。したがって、参加することの重要性から出席率、各テーマにおける積極的な参加意識、テーマ提起の準備による総合評価を行った。

4 授業改善の方法

日常において、新聞やニュースといった情報網に意識を持ってもらえるよう、身近な話題を中心に進めていった。仮説や問題意識をもって接することで情報収集のポイントを身につけ、見識を深めることができるようになったと考える。さらに職業観を高めるうえで、ビジネスの現場に直結するテーマを折り込み、情報の分析力を高めていくことが改善課題である。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 登坂 一博 **職名** : 非常勤 **所属** : 生活科学科
科目名称 : ビジネス文書 I **科目群** : 生活未来科 ビジネスキャリアコース 専門教育科目
授業コード : 3127 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 11名 **回答者数** : 9名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	5	3	1	-	-	-	6	3	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.00		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 11.1%	60分 程度 -	30分 程度 44.4%	ほとんど していない 44.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 11.1%	60分 程度 -	30分 程度 44.4%	ほとんど していない 44.4%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.22		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 22.2%	適切 であった 77.8%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.56		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 44.4%	注意 していた 44.4%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 11.1%	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.44		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.22		■				

1 授業の概要、特徴等

ビジネスコミュニケーションの重要な手段であるビジネス文書の基礎知識の習得をベースに本講座では具体的なビジネスシーンにおける文書の活用(読み、書き、伝える)について学生の理解度を考慮しながら講義を進めた。学生が本講座を通じて、ビジネス文書に関するより実践的なスキルを習得するために、様々な文例の理解、ビジネス文書の購読、その要約の作成及び1分間スピーチ等を繰り返すことにより受講生の血肉となり、実際のビジネス現場で役に立つ能力を身につけることを狙いとしました。

2 アンケート結果に対する見解

受講生の理解度を確認しながら、特に物事を論理的に考え、自身が一番伝えたいことを分かりやすく相手に伝えることを最重点に講義を進めた結果、私の自己評価と学生の評価に大きなギャップはない。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

受講生が、自分の考え・想いを自分の言葉で、相手が理解できるように伝えるビジネス文章作成スキルを身につけ、磨いてもらいたい。・・・という当初の目標はある程度は達成できていると思う。講義を休まずに出席(学び考える癖をつける)し、その講義中の受講態度、発表の内容等を主に成績評価基準とし、最後に「振り返り試験」を実施し総合的に理解力を判断し単位認定を行った。

4 授業改善の方法

学生の理解度に合わせるがゆえに授業の進め方が遅くなることがあるので、他の受講生に適度に課題を与えながら、ほどよい緊張感を保ちながら講義を進めていくように心がけたい。常に授業に参画せざるを得ない状況を作り、充実して集中できる講義の実施を心がけたい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 安田 寛 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53035 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	6	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.33		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 -	ほとんど していない 100.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 83.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.17		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 16.7%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.67		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 16.7%	ある程度 注意 していた 33.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.50		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.00		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.50		■				

1 授業の概要、特徴等

小学校の教員になって音楽の授業を行うのに必要な基本知識の獲得と技能等を習得する際の留意点を理解する。

2 アンケート結果に対する見解

教員の評価と一致していたので、納得できる結果であった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

1. で記したことを習得できたか、筆記試験で判定し、必要な知識を6割以上獲得できたと判定したときに単位を与える。

4 授業改善の方法

限られた時間内に、広範囲の知識を相互に関連づけて、効率よく習得させるよう事後学習や課題を適宜出すようにする。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 大西 有紀 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽基礎演習Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55410b・bb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 25名 **回答者数** : 21名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	21	-	-	-	-	-	-	20	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.57		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 9.5%	60分 程度 4.8%	30分 程度 38.1%	ほとんど していない 47.6%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 9.5%	60分 程度 4.8%	30分 程度 38.1%	ほとんど していない 47.6%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.81		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 9.5%	適切 であった 90.5%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.76		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 38.1%	注意 していた 42.9%	ある程度 注意 していた 19.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.76		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.50		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.81		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

目標 階名で歌う。大きな声でしっかり歌う。一人で歌う体験をさせる。その際に声のチェック・発声指導の時間を取る。子供の歌を階名で歌い、調名・拍子・調号の確認。保育の現場で役立ち実践できるよう個々の能力を高める。

2 アンケート結果に対する見解

日々の予習、復習に十分な時間を割いている学生が少ないことが気になった。ピアノと同じく歌も毎日の練習が大切である。課題の出し方等を工夫し、普段から練習に取り組むよう導いてゆかねばならないと思った。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

中間・期末試験。毎回の取り組みと課題達成度・授業態度・出席状況を総合的に加味し評価する。

4 授業改善の方法

一人一人の能力をしっかり把握し、意見に耳を傾け取り組んでゆかねばならない。真摯に向き合い指導してゆきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 澤田 博 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽基礎演習Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55410ab・ad・ba・bc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 56名 **回答者数** : 43名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	43	-	-	-	-	-	-	43	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.51		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 4.7%	60分 程度 9.3%	30分 程度 41.9%	ほとんど していない 41.9%	無回答 2.3%	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 4.7%	60分 程度 9.3%	30分 程度 41.9%	ほとんど していない 41.9%	無回答 2.3%	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.12		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 32.6%	やや 高かった 41.9%	適切 であった 23.3%	やや 低かった 2.3%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.26		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 11.6%	注意 していた 48.8%	ある程度 注意 していた 37.2%	あまり 注意し てい なかつ た 2.3%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	2	3.40		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	3	3.95		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.98		■				

1 授業の概要、特徴等

理論とソルフェージュで構成している音楽基礎演習Ⅱの理論部分。楽譜の理解を図るため、記譜法にとどまらず、拍子、調性、音階、和音(コードネームを含む)、楽語と記号を学ぶよう授業設計している。理論的説明が中心となるが、E P教室(電子ピアノを配置)での授業なので、鍵盤で音を発することにより理解を深めるよう工夫している。教科書を使用するが、楽譜の情報を授業にすぐ活かすことが出来るよう進めるので、ページ順ではない。また補足や修正を教科書に書き込ませるので、授業に出席して話を聴いていないと、後で本人が困ることとなる。

2 アンケート結果に対する見解

段階を踏んで、理詰めで考えることの苦手な学生が多いので、アンケート結果はこの程度のものであると思っている。事前学習・事後学習とも平均よりは時間が長い、これと十分とは言えないことが⑤の回答(高かったが合せて6割強)や自由記述において「難しかった」が多い点に現れている。音楽教科の観点からは「理解できなかった」部分があることは問題であるが、学生自身は学修経験として有効であったと考えていることが、⑩の回答(将来に役立つが合せて8割弱)に現れている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

音楽科目としての目標達成は不十分であったと言わざるを得ない。しかし、音楽経験の乏しい一高等学校で音楽を選択しなかった、また大学入学前にピアノを習っていない学生の多いことを考えると、単位認定は必ずしも不相当とは言えない。プリントを眺めて話を聴くだけでなく自分の手でノートに書き写す、教科書に書き込む、あるいは持ち込みなしの筆記試験に臨む等を経験することは、将来の自己学修について示唆を与えたものと考えている。

4 授業改善の方法

理解を深めるため説明を詳細にすると時間が掛かる。簡単にすると理解を得にくい。これまでは授業の中で多少の課題を与えることがあっても、定期的に宿題を課すことはして来なかった。しかし、現在の学生の勉学習慣から鑑み、課題プリントを用意するのは一つの改善策であると思われる。プリントを仕上げることで学生は達成感を味わうことが出来、そのことが次の勉学意欲を高めていく効果も期待できる。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 中島 倍代 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽基礎演習Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55410a・ac **授業形態** : 演習 **受講者数** : 31名 **回答者数** : 22名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	22	-	-	-	-	-	-	22	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.27		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 4.5%	90分 程度 -	60分 程度 4.5%	30分 程度 45.5%	ほとんど していない	45.5%	無回答 -
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 4.5%	90分 程度 -	60分 程度 4.5%	30分 程度 45.5%	ほとんど していない	45.5%	無回答 -
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.41		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 4.5%	やや 高かった 18.2%	適切 であった 72.7%	やや 低かった 4.5%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.50		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かつ た 27.3%	注意 してい た 36.4%	ある程度 注意 してい た 22.7%	あまり 注意し てい なかつ た 9.1%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 4.5%	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.55		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.41		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.36		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

90分の授業時間を1/2にし、音楽理論とソルフェージュの2種類の内容を行う。私はソルフェージュ担当だったのでその内容について。教材は「こどものうた200選」。その中から、保育現場で良く使う曲を学ぶ。前述の曲を用い、音楽の基礎(歌う・リズムを打つ・楽譜を理解する)を知る。また、反復練習により基礎を会得する。

2 アンケート結果に対する見解

毎年、クラスの雰囲気が違うので そのクラスに適したレベル・やり方に工夫を重ねる。ある程度、理解を得られた様に思うが 45分15週の時間では十分に伝えきれないもどかしさがある。理解を得た上で反復練習を増やす事が出来れば もっと多くの達成感が得られると感じている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の1番の目的は 人前で大きな声で歌える様になる事。これはかなりの部分 達成出来たと思う。4月に音がきっちり取れなかった学生も多かったが 今では殆んどが正確な高さで歌える様になった。成績は 中間試験・期末試験の評価に加え、平常点として出席状況・授業態度・課題達成を加えて判断している。

4 授業改善の方法

予習・復習を自主努力に任せるとばらつきが大きくなるので、簡潔な課題を出してみようかと考えている。今以上に「1人ずつ指名して」理解出来ていない者の発見・指導を徹底していきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 大城 弓恵 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305ab・bd・ce **授業形態** : 演習 **受講者数** : 14名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	14	-	-	-	-	-	-	14	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
					1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.43		■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.21		■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答		
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.64		■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった	注意 していた	ある程度 注意 していた	あまり 注意して いなかった	全く 注意して いなかった	無回答		
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.64		■					
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができたと思いますか。	4	4.36		■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.64		■					

1 授業の概要、特徴等

音楽Ⅰの単位を取得した学生を対象に開講しており、ピアノの演奏技術の習得を目標としている。課題はピアノ曲の演奏とこどものうたの弾き歌いの2種類があり、弾き歌いに関してはカデンツを用いた伴奏を学ぶ。授業は個別レッスンとグループレッスンとに分け行う。グループレッスンではEP教室を使い歌唱やピアノ演奏のテクニック、弾き歌いの伴奏練習を行い、個人レッスンでは各自の課題曲のチェックをする。音楽Ⅰで学んだことを基に、演奏技術や音楽表現の更なる向上を目標としている。

2 アンケート結果に対する見解

個人レッスンということもあるのか授業態度はとても良かった。音楽Ⅰに比べるとピアノが苦手な学生ほどよく練習してくるようになったと感じる。この授業の必要性を感じる学生が多く、他の授業に比べると予習時間も復習時間も多し。しかし授業のレベルが高いと答えた学生が多く(実際授業でも度々耳にし)、取り組んだ割に技術習得の達成感が得られていないように感じる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成はピアノ曲と弾き歌いを課題曲数以上合格していることで判断する。期末試験は課題曲(弾き歌い)と、自由曲(ピアノ曲)の2曲で、自由曲はそれぞれのレベルに応じた曲を選ぶ。評価は演奏に対する絶対評価で行う。期末試験の評価に平常点等を加味し最終成績とする。

4 授業改善の方法

2でも触れた通り授業のレベルが高いと答えた学生が多く、ピアノが弾けるようになったという達成感を得られた学生が少ないのではないかと感じる。曲のレベルを落としその代わり曲数を増やすことで、自力で楽譜を読み練習する力がつくのではないかと感じる。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 玉井 奈摘 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305ad **授業形態** : 演習 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	4	-	-	-	-	-	-	4	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価				
					■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.50		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 25.0%	60分 程度 75.0%	30分 程度 -	ほとんど していない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 25.0%	60分 程度 50.0%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.75		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 25.0%	適切 であった 75.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.75		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 75.0%	注意 していた 25.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.75		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができたと思いますか。	3	4.00		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.25		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

保育士に必要なピアノ演奏力・歌唱力を身に付ける。バーナム・ケーラー(レベルに応じた曲)・こどものうたの教材を使用し、読譜力や表現力、テクニックを学ぶ。90分授業のうち45分を個人レッスン・45分をE P教室でのグループレッスンとし、両方を受講して出席となる。

2 アンケート結果に対する見解

担当した学生は真面目で素直な学生が多く、受講態度も非常に良かった。個人レッスンで一人ずつ見ている間もきちんと練習していた。アンケート結果の全体平均から比べてみてもよく練習していたと思う。しかし、全体平均の練習時間の少なさに驚き、問題であると感じた。選択設問に関しては自由記述の記載がないことから分析が難しいが、おそらくテクニック面で演奏が困難なところがあつたことを意味しているように思う。この点は、具体的に動作を見せながら、論理的な面からと感覚的な面からの両面で示せる様に工夫していきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

期末試験点と平常点、欠席減点、中間テストの点数等から成績評価を行う。15回目の試験までにバーナム・ケーラー(レベルに応じた曲)・こどものうたそれぞれ必要曲数合格していなければ、単位不認定となる。

4 授業改善の方法

練習にはよく取り組んでいたが、曲の性格やそれに合った弾き方、表現といったところでなかなか合格曲数が増えない問題もあった。書物と同じく楽譜も、読む数が少なければ読むスピードも上がらない、理解力もつかないといったところがあるので、もう少し色々な曲を取り組めるように改善したい。E P教室の担当もあり色々な学生に接したが、無味乾燥に演奏し、つまらなさそうな学生もいた。1つでも心惹きつけられるような曲があれば、がらりと変わることがよくあり、そんな運命的な曲に出会えるよう多くの曲を知って欲しいと思う。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 宮田 眞理 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅱ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55305af・bb・cb **授業形態** : 演習 **受講者数** : 15名 **回答者数** : 14名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	12	2	-	-	-	-	-	14	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.64		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 21.4%	90分 程度 -	60分 程度 28.6%	30分 程度 42.9%	ほとんど していない 7.1%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 21.4%	90分 程度 -	60分 程度 28.6%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.79		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 7.1%	やや 高かった 28.6%	適切 であった 64.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.93		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 78.6%	注意 していた 21.4%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	5.00		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.79		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.93		■				

1 授業の概要、特徴等

ピアノ演奏の初歩、バーナム・ケーラーの教則本を用いての授業。童謡弾き歌いの導入。音符の読み方・楽譜の理解・楽語の理解。指導は個人授業とEPでの全体授業。

2 アンケート結果に対する見解

学生が興味をもって常に課題に取り組めるよう、曲の成り立ちや解説など色々な言葉かけをしていますが、なかなか予習や復習に結びつかないのが現状です。学生がこの曲が弾きたいと意欲を持てるよう更に努力をしたいです。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業で決められた曲数を合格し、試験でミス無く演奏する。童謡は弾き歌いで大きな声で歌える事。複数の講師で採点し、平均点を出す。平常点も加味される。

4 授業改善の方法

練習に時間と根気が必要なピアノへの意欲をいかに継続させられるか。これを念頭に作曲家のエピソードや曲の構成等分りやすく説明し色々な方面からピアノに興味を持てるように授業を展開していきたいと思っています。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 奥田 尚子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽IV **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55325ab・be **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	5	-	1	-	-	-	5	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価					
				■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.67		■■■■■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 16.7%	90分 程度 -	60分 程度 33.3%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 16.7%	90分 程度 -	60分 程度 50.0%	30分 程度 33.3%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.83		■■■■■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった -	適切 であった 100.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.67		■■■■■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 33.3%	ある程度 注意 していた 16.7%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.50		■■■■■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.17		■■■■■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.50		■■■■■				

1 授業の概要、特徴等

1年次の音楽ⅠⅡ単位修得者対象の前期音楽Ⅲに続く授業である。ピアノを弾く基礎技術の身についた学生に、更なる技術の向上させ、即戦力を身につけ、更に表現力を高めさせ、現場で演奏される曲の雰囲気を子供たちに伝えることの出来るピアノが弾けるようにする。就職試験対策として、初見演奏を体験させ、実技試験の為に、ピアノ試験曲や弾き歌い課題の指導を行う。

2 アンケート結果に対する見解

意識の高い学生が受講していたので、サボりの欠席はほとんどなく、熱心に取り組んでいた。今までは、難しくて到底弾けるようになるとは考えられない曲にも、果敢にチャレンジして取り組む姿勢が見られた。2年間頑張った良かったと、ピアノに苦手意識が無くなった、楽しかった、という感想が、最後に学生たちから聞けた。受講者が3人と少なかった為、クラス内が団結し一緒に上手くなるよという雰囲気が見られた。丁寧に指導し、一緒に考えながら、授業を進めることが出来た。学生たちの成長は著しいものがあつた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は、各学生達成できたと思う。チャレンジさせた曲に取り組んだ学生に対して、試験採点時に配慮が欲しかった。

4 授業改善の方法

音楽Ⅳは幼稚園就職の学生には、非常に意義のある授業であると思う。1 課題に、オリジナルの伴奏、例、犬のおわりさん、や、雨降りくまの子、レベルの曲(簡易伴奏でない)経験させてどうか。2 初見演奏の課題に工夫が必要。(実際の試験に合わせた形、今までの課題はちょっと難しく、ただ経験しただけで、全然出来ない学生が多数で残念)

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 山下 玲子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 音楽Ⅳ **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55325ad **授業形態** : 演習 **受講者数** : 4名 **回答者数** : 3名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	3	-	-	-	-	-	3	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.33		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 100.0%	ほとんど していない -	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 33.3%	30分 程度 66.7%	ほとんど していない -	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.00		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 66.7%	適切 であった 33.3%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.00		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意す る必要 はな かつ た 66.7%	注意 してい た 33.3%	ある程 度注 意し てい た -	あま り注 意し てい な かつ た -	全 く注 意し てい な かつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.33		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.33		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

音楽Ⅳは、前期の音楽Ⅲに引き続き開講されている。この授業では、これまで修得してきたピアノ演奏技術をより高め、現場で実践できる力を獲得していく。特に、楽譜に書かれている情報を正確に把握し、表現力を高めることを目指している。また、楽譜を全体的に捉える力を養うために、初見試奏にも取り組む。必要があれば、学外実習や採用試験で弾く曲を取り上げ、実践対策をする。

2 アンケート結果に対する見解

ピアノ演奏技術を高めるには、授業時間以外に自主的に毎日コツコツと練習をし、努力していくことがそもそも必要であるので、一週間あたりの勉強時間はもっと取って欲しいところである。アルバイトが学習に影響した、と答えた学生もいるので、練習のために使用可能な楽器の保有の有無や、時間帯を気にせず音を出して練習できる環境の有無など、各々に諸事情は有ろうかと思うが、まずは自主的な練習への学生自身の意識をより高めていきたいと思う。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

学生各々のレベルに合わせて選曲したピアノ曲を3曲以上、また初見試奏を1曲以上、授業時間内に合格すること。合格の基準としては、速度や強弱表現、指遣いなどに配慮した演奏になるよう仕上げたものとする。単位が認定されるには、授業で合格した曲の中から1曲を期末試験で演奏し、その成績に、出席状況、意欲、平常点などを加味して、総合的に評価する。

4 授業改善の方法

学生が、ピアノ演奏技術を高めていくのに必要な自主的練習時間を増やしていくように、学生各々のレベルに合った有効な選曲をし、継続的な努力に結び付けたい。また努力したことでの上達の実感を得ることで、次への意欲となるよう配慮した指導をしていきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 川端 建治 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 国語科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53010 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	6	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 83.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.83		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 33.3%	やや 高かった 66.7%	適切 であった -	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.17		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 100.0%	注意 していた -	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.00		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.33		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.83		■				

1 授業の概要、特徴等

本授業では、小学校国語科教育に関する基礎知識、及び各領域の授業実践に必要な授業力を習得させることを目指して取り組んできた。受講者が少人数であったことを考慮に入れ、授業形態を当初予定の講義中心の進め方から演習方式に改め、教材研究・授業構想・模擬授業による授業実践等に、受講者各自の自力学習や相互の討議を取り入れ、受講者の主体的で自主的な授業参加を促してきた。

2 アンケート結果に対する見解

アンケートに対する学生の回答結果は、ほぼ予想通りであった。学生たちの受講態度は、概ね真面目で学習参加にも積極的であったが、受講時期が一回生後期という点で、授業内容の習得においては、少し抵抗があったようである。本授業で扱った授業力習得のための教材分析や授業構想、さらに授業実践等の前提となる学習として、学習指導要領各領域の目標・指導事項をはじめ、単元を構成する教科書教材の内容、さらに学習指導に関わる基礎的な知識等、この時期の学生にとっては理解すべき内容が大変多く難しかったと思われる。そのため、当初の扱う予定であった内容を大幅に精選し、具体化する必要が生じた。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

現行指導要領の目標、及び各領域の指導事項に見られる強調点の理解や、授業におけるその具体化の方法の習得については、旧指導要領との比較検討や、教科書教材の授業における具体的な取り扱い例(指導案・授業記録等)を取り上げ、その考察においては、自力思考や集団討議等を取り入れることで、受講者の主体的・意欲的な学習参加を促した。特に、今求められている習得と活用をつなぐ「探究的学習の必要性」については、受講者全員の共通理解を図ることができたのではないかと考える。全員に「優」を与えることができた根拠は、これらの習得を活かした指導案作成や模擬授業実践での一定の成果を見取った結果である。

4 授業改善の方法

2の項でも述べたが、本授業が一回生後期という段階での実施に、学習内容とそれを学ぶ学習者の学習経験・知識基盤・学習能力との間のずれを感じる。教育実習との関係で、時期をずらすことが無理であるので、内容の精選と学びの具体化を工夫するしかない。シラバスでは、各領域の指導内容を、低・中・高学年と発達段階に分けて扱うことにしていたが、それぞれを扱うには時間的にかなり無理がある。教材研究・授業構想・授業実践、それぞれの学習を充実させるためには、今後は、いずれかの発達段階に絞って、内容理解の学習にじっくり時間をかけて取り組めるように工夫したい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 園部 勝章 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : こどもと自然 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 55100 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 12名 **回答者数** : 10名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	10	-	-	-	-	-	10	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.70		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 10.0%	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 10.0%	ほとんど していない	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.30		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった -	適切 であった 100.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.40		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	あまり 注意して いなかった	注意する 必要は なかった 30.0%	注意 していた 20.0%	ある程度 注意 していた 30.0%	あまり 注意して いなかった 10.0%	全く 注意して いなかった 10.0%	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.30		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.10		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

授業の目標は、「保育者として、子どもたちが、生活の場の自然に親しみ、自然科学への興味を促すことができる力を身につける。」です。学びの内容は、小学校の算数・理科です。受講者が、生活の場での自然への興味・関心を持てるように、毎時間のはじめに、3種類の草花や星空の紹介をし、授業をすすめました。そして、植物や動物、物質の基礎概念や割合・正比例など小学校での学びを実験や問題解きをしていきました。授業後の感想で「地球の夏と冬の太陽の距離や夏・秋・冬・春の距離のちがいがよくわかりました。」とか「いまだに月のみちかけがわからない。これからもべんきょうしてみるのもありかなと思った。」とあります。

2 アンケート結果に対する見解

①の「勉強しやすい雰囲気づくり」についての評価が低いことや②③の事前・事後の勉強時間が少ないことについては、指導者の責任です。学ぶとはということの意味を受講者に伝えきれていないと思います。受講者が、小学校での数や自然にかかわる学びをより確かなものになることで、保育者として子どもたちに数や自然についての学びをつくりだせるようになってほしいと思います。また、⑩「将来に役立つ」ということで、「ある程度」が50%もあることは、学びの内容を理解し、生活の場に活かすことに不十分さがあり、指導者の責任であると反省しています。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

単位認定は、「授業への出席10%、授業での感想(200字以上の感想)20%、課題(例えば、「自然とこどもとのかかわり」など)10%、試験60%」ということを基準にして行いました。受講者が、授業の感想を200字以上で書くことで、学びでわかったことや質問、要望などを書くようにしました。授業の中で、課題(例えば、5才児への自然にかかわる学びの例を考えよう。)に対する考えを書かせたりしました。試験は、小学校での算数や理科のかかわる基本的な内容や課題(5才児への指導例)などについての考えを書かせたりしました。

4 授業改善の方法

○何のために学ぶか。このことを受講者と授業者ともにわかりあえるようにしたいです。○何を学ぶか。「こどもと自然」での、学びは小学校での算数や理科にかかわる基本的なことを学ぶことを理解させていきたい。○受講者が、学んだことを実生活に活かすことを積極的に行える場面(考えたり、考えたことをまとめていく活動等)をさせていきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 重松 敬一 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 算数科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53020 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	6	-	-	-	-	-	-	5	-	-	1

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価					
				■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.83		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 33.3%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 33.3%	やや 高かった 50.0%	適切 であった 16.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.67		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 66.7%	注意 していた 16.7%	ある程度 注意 していた 16.7%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.83		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.83		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.60		■				

1 授業の概要、特徴等

本授業の到達目標は次の2つであり、ポイントを→で示している。(ア)小学校算数科の指導内容及び指導方法の基本的な事項を理解する。(イ)小学校算数科の学習指導案の作成について理解する。→ 目標設定にあるポイントは授業の各回のポイントを写真・ビデオなども利用して解説し、それを踏まえて、算数授業実践のロールプレーと学習指導案作成のレポートに向けて、数学的・社会的な視点から算数科教育の意義、指導内容、指導方法、評価などの一層の理を図った。

2 アンケート結果に対する見解

学生は、一名の大学終了・社会人経験者を除いて、高校を卒業したばかりであり、途中で幼稚園実習も経験したとはいえ、小学校の算数の学びを想起させ、現在の算数の課題や指導上のポイントなどの学習や指導のイメージ化は難しかったようである。他のテキストを購入させることは避け、学習指導要領解説、算数の検定教科書をテキストとしたものの、それでも読むことすら難しい(用語など)ようであり、パワーポイントによるプリントを使つての授業でもなかなか実感が持ちにくいようであった。アンケートの実施時期は、授業実践の直後だったこともあり、講義の必要性を理解してくれ、今後役立つという評価をしたようである。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

算数教育のポイントの理解と学習指導案作成を目標達成として、授業の参加意識・小課題の達成・レポートの達成で判断し、84, 90, 77, 70, 65, 70で単位認定した。

4 授業改善の方法

授業実践で教材研究や発問など子どもへの学習支援の難しさを知つたようなので、授業での具体的な事例による説明や討議などによるアクティブ・ラーニングとなるよう授業改善を図りたい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 潮谷 光人 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 児童の健全育成と福祉 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53318 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	5	-	-	-	-	-	5	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.40		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 40.0%	ほとんど していない 60.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 40.0%	ほとんど していない 60.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.80		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 低かった	非常に 高かった -	やや 高かった 40.0%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	5.00		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 40.0%	注意 していた 60.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.60		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.80		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

当該授業は、児童厚生員の資格に必須となる科目であるが、受講している学生は、単位取得のために受けている学生が複数混在していた。そのため、授業内容について専門性と一般的なことをバランスよく配慮する必要がある。授業概要としては、子どもの権利条約についての理解と子育て支援の制度と実態、児童虐待の現状と課題といったことを中心に行った。8回と授業回数に限られているため、児童館で働く職員が最低限学んでおくべき内容に集約した。予習については課しておらず、小テストにて知識を確認するという課題を課し復習を行うようにした。

2 アンケート結果に対する見解

アンケート結果、勉強しやすい雰囲気づくりの項目は、平均点を上回っていたことから、本授業に学生が楽しんで参加できていたことが推察される。授業時間外の復習の時間については、小テストを課していた割に低い水準となっており今後の課題であると考えている。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

シラバスでの記載の通り、設定した内容や到達目標を達成するために、試験や小テストを課したが、小テストについてはあまり点数が良いものではなかったが、試験についてはほとんどの学生が、基準を達成しており、試験勉強への取り組みは一定行ったことが伺えた。

4 授業改善の方法

アンケート結果から、わかりやすさや将来へも役立つといったところについては、一定の評価を得ているため、今後も授業内容の質を継続したものとしていきたい。一方、予習復習においては、低い評価となっているため学生が主体的に取り組めるような授業外の学習について設定していきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 早川 淳 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 小児保健B **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52110ab **授業形態** : 講義 **受講者数** : 72名 **回答者数** : 61名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	58	3	-	-	-	-	-	60	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.05		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 1.6%	90分 程度 -	60分 程度 1.6%	30分 程度 21.3%	ほとんど していない 75.4%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.6%	90分 程度 1.6%	60分 程度 1.6%	30分 程度 21.3%	ほとんど していない 73.8%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.00		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 4.9%	やや 高かった 23.0%	適切 であった 70.5%	やや 低かった 1.6%	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.38		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 1.6%	注意 していた 37.7%	ある程度 注意 していた 49.2%	あまり 注意し てい なかつ た 8.2%	全く 注意し てい なかつ た 3.3%	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.33		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.64		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.11		■				

1 授業の概要、特徴等

小児保健の重要な事柄は2点ある。1点目は子どもの成長と発達についての基礎知識の習得、2点目は子どもの健康保持増進に向け環境を整えることである。そのためには安全教育と衛生教育の取得が将来の幼児教育者にとって必要なことである。特徴として、グループワークを取り入れている。学生自身が子どもの健康についてテーマを決め学習し、それをまとめて、プレゼンテーションを行い、幼児教育者として力をつけていく。

2 アンケート結果に対する見解

受講態度、授業内容、総合評価に対しては全体平均より上まわっているが、授業の進め方が下まわっていることについて、反省していかなければならない。学生の理解度に配慮しながら進めてきた。そのために復習に力を注ぐために毎回テストをして答え合わせをしながら復習してきた。今後もしていきながら予習にも力を注いでいく。教科書を指定したのでプリントやコピーの事柄はなくなると思う。名前を覚えるように努力していく。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

子どもの成長と発達についての基礎知識の取得と健康保持増進についての保健指導の方法等を保育者の役割を考察しながら授業を進めてきた。AもBも学生の成績の評価は7割であり、幼児教育者として、プレゼンテーションの場の発表内容や態度から評価できると単位認定の基準とした。

4 授業改善の方法

授業の進め方を再度検討していく。従来の復習テストに加え予習にも力を注いでいきながらグローバルな考え方ができるように今後多方面の情報も加味していきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 宇田 秀士 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 図工科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53040 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	6	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 66.7%	ほとんど していない 33.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 50.0%	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.33		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 16.7%	やや 高かった 16.7%	適切 であった 66.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.50		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 83.3%	注意 していた -	ある程度 注意 していた 16.7%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.50		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.17		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.67		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

小学校図画工作の内容を知り、題材試作の方法を学び、学習指導案の初歩的なものが書けるようになる。

2 アンケート結果に対する見解

アンケート結果や学生の反応をふまえ、次年度に活かしていきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

ある程度達成できた。小学校図画工作の内容を知り、題材試作の方法を学び、学習指導案の初歩的なものが書けるようになったか。毎回の取り組み、小課題、まとめ課題(学習指導案、題材試作、教具作成)、模擬授業の様子を総合的に判断した。

4 授業改善の方法

毎回の学生の反応、学生の提出物、模擬授業の様子をみて、フィードバックした。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 小幡 肇 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 生活科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53030 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	6	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価					
				■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	-	4.00	■					
	② 事前学習や課題を課しましたか。	-	120分 以上 - 90分 程度 -	60分 程度 16.7%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 66.7%	無回答 -		
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	-	120分 以上 - 90分 程度 -	60分 程度 33.3%	30分 程度 50.0%	ほとんど していない 16.7%	無回答 -		
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	-	4.67	■					
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	-	非常に 高かった 16.7%	やや 高かった 66.7%	適切 であった 16.7%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	-	4.33	■					
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	-	注意す る必要 はな かつ た 83.3%	注意 して いた -	ある程 度注 意し てい た 16.7%	あま り注 意し てい な かつ た -	全 く注 意し てい な かつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	-	4.17	■					
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	-	4.50	■					
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	-	4.67	■					

1 授業の概要、特徴等

生活科教育について、これから文科省が求めている主体的・協働的な授業を展開できる指導力の育成に重点を置きました。そのため、受講生にはテキストの事前把握とそれをもとにした討議を課しました。また、植物栽培を通じた創作作業及び『オススメの人』取材した模擬活動に取り組ませました。さらに、実際の生活科の授業をVTR視聴を通して共有させました。

2 アンケート結果に対する見解

6名ということもあり、眼と眼を合わせながら授業できたことが大きいと思います。また、アンケートについては、かなり気をつけていただいているように感じます。これが10倍の人数になると、ここに表れている数値も1/10となると考えます。そこで多様な思いをもつ大勢の受講生の場合でも、事前・事後の学習時間に取り組む姿勢や実習で活かしてみたいと思えることを提示していく努力が、今後も求められると考えています。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成のためには、毎回の事前学習用のワークシートが目標達成を可能とする項目に改善していくことが必要であると、考えています。そして、数値では示せない作業や活動の内容を具体的に評価して示す観点を学生にも示していくことが課題であると考えています。単位認定については、受講生の前向きな姿勢を高く評価していきたいと考えています。

4 授業改善の方法

第一に、毎時の授業でどのようなことを学生が学べばよいか具体的なつかめる工夫をしなればとを考えます。第二に、毎時の授業内の時間をどのように配分して使うかを密にする必要があると考えます。第三に、今回は授業内において考えを整理し、書くという作業を十分に行えなかったことから、次年度の授業においては、学生に書く作業を通して自ら整理・了承できるように改善したいと考えます。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 北澤 太野 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 体育科教育法 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53050 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	6	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.17		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 16.7%	90分 程度 -	60分 程度 33.3%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 33.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 16.7%	90分 程度 -	60分 程度 16.7%	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 50.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.33		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 50.0%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.17		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった 50.0%	注意 していた 16.7%	ある程度 注意 していた 33.3%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.50		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.33		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.67		■				

1 授業の概要、特徴等

小学校の教員免許状取得を希望する学生を対象とした小学校体育科の内容に関する授業である。授業は体育授業や各領域の内容についての理解を深められるように、講義だけでなく実技も行った。また、少人数の良さを生かし、模擬授業の計画と運営を一人ひとりが経験する場を設けた。模擬授業は、実践上の視点や各領域の特徴、指導方法について考えさせ、さらに、体育授業を観察する視点や授業を省察する方法について学生自身が確認できる場となった。

2 アンケート結果に対する見解

評価項目の受講態度①、②から予習・復習について、学生間で差があるように思われる。授業時間毎に予習や復習の観点を示すとともに、各学生の生活実態、理解度に合わせた個別の対応が必要だと考える。選択設問⑩および自由記述⑩から、体育館そのものの設備や模擬授業運営の際に必要な用具に課題があることがわかる。本年度から始まった小学校の教員免許状取得にかかわる本授業を意識して、運動設備や用具を充実させていくことが必要である。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本授業を履修した学生は、授業内で説明した小学校の体育授業の特徴、指導上のポイントを踏まえ、模擬授業を計画、運営、反省した。こうした一連の取り組みを受講態度(出席を含む)、レポート、模擬授業の運営に用いた指導案の内容から総合的に評価した。その結果、本授業を履修したすべての学生は、授業の目標をおおむね達成したと判断できたため、単位を認定した。

4 授業改善の方法

小学校の教員免許状の取得を希望する学生に対して、自分自身が実践現場で体育授業の指導を行う姿を具体的にイメージできるように設備の整備や用具の補充をしていく必要があると考える。そこで、本科目と深くかかわる教育実習や他の体育館を使用する科目の内容を踏まえて、補充する用具を検討する。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 増井 啓子 **職名** : 教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(言葉) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53130ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 64名 **回答者数** : 56名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	53	2	1	-	-	-	-	55	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.23		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 3.6%	90分 程度 1.8%	60分 程度 5.4%	30分 程度 25.0%	ほとんど していない 64.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.8%	90分 程度 1.8%	60分 程度 7.1%	30分 程度 28.6%	ほとんど していない 60.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.52		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 1.8%	やや 高かった 14.3%	適切 であった 83.9%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.59		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 3.6%	注意 していた 76.8%	ある程度 注意 していた 17.9%	あまり 注意し てい なかつ た 1.8%	全く 注意し てい なかつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.41		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.20		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.71		■				

1 授業の概要、特徴等

乳幼児期は、言語力が著しく育つ時期であり、環境から様々な刺激を受けることによって、言語活動が活発になる。本授業では、言葉の発達を理解し、言葉や表現に対する興味や関心を高める遊びや教材について学び、子どもの豊かな心を育てるよう、様々な児童文化財を実際に活用できる技術を身に付け、自らの表現力を豊かにすることに力を注いだ。

2 アンケート結果に対する見解

教科書やプリント資料を使いながら、講義形式でおこなったり、グループで言葉遊びや絵本の読み聞かせを計画し実践したりするなど、学生たちの様子を見ながら主体的に授業が進むよう工夫してきた。また、毎回授業の開始時に人前で話すことに慣れるために、手遊びをしたり身近な出来事の「スピーチ」を取り入れたりした。言葉と人間関係の育ちにも重点を置き保育の実際として手作り教材にも取り組んだ。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標は概ね達成できた。成績評価は授業への積極的参加態度・コミュニケーション力を重視しそれを基準に考えた。また、レポート(作品を含む)提出物状況・グループワーク等合わせて評価した。個々の誠実な取り組みが見られ、効果はあったが理論的なことが増えると集中が続かなかつたりした。

4 授業改善の方法

学生が主体的に参加できるように今後も相互のコミュニケーションを増やして進めていきたい。また、日常の言葉遣いは自分自身の課題であると意識できるよう発表の機会を工夫するなどして、言葉への関心を高めていきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 石田 裕子 **職名** : 准教授 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育心理学演習 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52011ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 66名 **回答者数** : 62名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	59	3	-	-	-	-	-	61	-	-	1

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.21		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.6%	90分 程度 1.6%	60分 程度 4.8%	30分 程度 29.0%	ほとんど していない 62.9%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 1.6%	90分 程度 -	60分 程度 4.8%	30分 程度 33.9%	ほとんど していない 59.7%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.37		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 12.9%	やや 高かった 35.5%	適切 であった 51.6%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.42		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意す る必要 はな かつ た 11.3%	注意 してい た 72.6%	ある程 度注 意し てい た 16.1%	あま り注 意し てい な かつ た -	全 く注 意し てい な かつ た -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.50		■				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.19		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.55		■				

1 授業の概要、特徴等

心理学の手法 観察や行動評定、行動改善発達の捉え方などがどのように保育に生かされていくかということをテーマに授業を行った。教科書を中心としながら、視覚教材、道具等実際に使い、また学生が参加できるように授業を展開した。また当初は毎回課題を課すことを念頭に置いていたが、他の授業等の兼ね合いや実習関連の課題等学生もたくさんの課題を抱えており、全体で5回の課題を課した。提出率は約90%であった。

2 アンケート結果に対する見解

数値で見ると説明の仕方のわかりやすさ、学生の理解度を配慮しながらの授業進行、新しい知識や技術が得られ、問題意識や関心が高かったかどうかに関する項目は満足度が高いようであるが、授業のレベルが適切であったかどうかに関しては、適切が51.6% 非常に高かった、やや高かったを合わせると48.4%さらに、自由記述には「板書を工夫してほしい」「難しい」「暗記が多すぎる」等の回答がある。板書を写すことに非常に時間がかかる学生は前の席に配置し、質問しやすい状態を作るなどの配慮をしていきたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

到達目標は「保育現場に求められる発達の捉え方を知り、それに応じた具体的な援助を身につける」であるが、アンケート項目「新しい知識や技術が得られ、問題意識や関心が高まったか」の「そう思う32.3%」「ある程度思う54.8%」であることをみると達成できていると思われる。成績評価基準に関しては課題(提出物)授業態度、理解度を根拠とした。理解度に関しては確認するための問題を学生同士で考えさせたことにより、授業の理解に役立ったと思われる。(選択問題11)

4 授業改善の方法

2で挙げたように、板書に関しては説明を補足し、座席を工夫する。説明をする際には全員の注意が集まっているかどうかを確認して授業を行う。また用語等がわかりにくいのであれば、説明をよりわかりやすくする。なにがわからないかを質問できるようにミニッツペーパー等を配布するようにする。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 田中 善大 **職名** : 講師 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育心理学演習 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 52011c **授業形態** : 演習 **受講者数** : 6名 **回答者数** : 6名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	6	-	-	-	-	-	-	6	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.00		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 83.3%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 16.7%	ほとんど していない 83.3%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	4.67		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった 16.7%	やや 高かった 33.3%	適切 であった 50.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.83		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 83.3%	注意 していた 16.7%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.83		■ ◆				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.67		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.83		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

保育実践関わる心理学の知識と応用実践について、講義及び演習を行った。講義では、内容に関する質問を定期的に学生に行い、学生が主体的に考える機会を設定した。講義で習得した知識については、保育場面での例を考える等の演習を行い、知識の定着を図った。他にも、授業内容に関する映像資料を積極的に活用し、学生の理解の促進を行った。

2 アンケート結果に対する見解

アンケート結果、勉強しやすい雰囲気づくり(①)と授業時間外の学習時間(②、③)を除くすべての項目が平均点を上回っていたことから、本授業の内容、形式は概ね受講生に適したものであったことが推察される。授業時間外の学習時間については、平均を下回る結果となったが、これは、授業外の課題や勉強方法等を提示しなかったことが要因であると考えられる。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業内試験、受講態度の状況から単位認定を行った。試験では、シラバスで設定した学修内容/到達目標の達成を測定するために、心理学の基礎的な知識に加え、その応用についても解答させた。多くの受講生が、学修内容/到達目標を達成し、単位の認定を受けたことから、本授業が、学修内容/到達目標の達成において適切なものであったことがわかる。

4 授業改善の方法

アンケート結果から、授業時間外の学習時間の増加の必要性が示唆された。このために、次年度の授業では、定期的に試験を実施することで、試験勉強という形で授業の学習を促す予定である。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 片岡 三和 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育内容総論 **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53090ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 64名 **回答者数** : 40名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	40	-	-	-	-	-	38	-	-	2

評価項目	教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均					
				1	2	3	4	5	
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.70		■■■■■◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 -	30分程度 12.5%	ほとんど していない 87.5%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 -	90分程度 -	60分程度 -	30分程度 12.5%	ほとんど していない 87.5%	無回答 -	
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.98		■■■■■◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった -	やや高かった 17.5%	適切であった 80.0%	やや低かった 2.5%	非常に低かった -	無回答 -	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	4.20		■■■■■◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要は なかった 2.5%	注意していた 70.0%	ある程度 注意していた 27.5%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.03		■■■■■◇				
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.00		■■■■■◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.21		■■■■■◇				

1 授業の概要、特徴等

教員養成校としての直接的な内容の授業であり、授業の中で子どもの顔が想像することが出来なくては浅いものになってしまいます。まだまだ現場に立っているわけではないのですが、その分、出来る限りの想像力を働かせ、自分の思いと子どもの思いを大切にしてく姿勢を学ぶものです。

2 アンケート結果に対する見解

アンケートの結果を大切に反省も含めて改善を心がけてきましたが、回を重ねる毎にわからなくなり、後期には自分らしさを見失った様な授業を展開していたように思います。誰からみてどうかではなく、自分のスタイルで心を込めて授業をし続けることの大切さに気付きました。大学であっても、学ぶ者達へ心を込めることが幼児に関わる仕事につこうとしている学生達に一番必要な授業だと改めて思いました。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

教師(保育士)としての資格を手にして、子ども達の成長により良く関わってゆきたいという気持ちなくしてこの授業は、なり立たないと思っています。しかし、現実には非常にむづかしいところです。目的としては、そここのところに置く姿勢が、今よりも少しでも高くにと願って展開しています。このこと(心の置き場所)を重要視し、成績評価としています。

4 授業改善の方法

ひとりひとりの学生をサポートする意味で、又、「ほっときません」を実践してゆくために、専任非常勤にかかわらず、情報交換をしてゆく場が必要ではないでしょうか。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 青木 恵子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・身体表現) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53161ab **授業形態** : 演習 **受講者数** : 67名 **回答者数** : 59名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	59	-	-	-	-	-	-	59	-	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.29		■ ◆				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 5.1%	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 5.1%	ほとんど していない	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	4	3.69		■ ◆				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった 3.4%	やや 高かった 16.9%	適切 であった 67.8%	やや 低かった 6.8%	非常に 低かった 3.4%	無回答	1.7%
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.49		■ ◆				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	ある程度 注意していた	注意す る必要 はな かった 3.4%	注意 してい た 52.5%	ある程度 注意 してい た 35.6%	あまり 注意し てい なかつ た 3.4%	全く 注意し てい なかつ た 3.4%	無回答	1.7%
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	3.49		■ ◆				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	2	3.78		■ ◆				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.14		■ ◆				

1 授業の概要、特徴等

幼児の身体表現活動の意義を理解し、どのようにサポートし、発展させていくかを、自分の体を使って表現することに取り組み、考えていく。同時に、自身の身体への認識を深め、楽しさを味わう。

2 アンケート結果に対する見解

全くと言っていいほど、伝えたことが伝わらなかったのだと判りました。特に、説明が仕方がわかりにくかったという点については、常に板書を用いるべきであった(12月以降、板書を使うようになりました)と反省しています。申し訳ない気持ちでいっぱいですが、果たして彼らが真摯に取り組んだ上での見解なのかといった疑問も残ります。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

予定していた授業内容の7~8割程度しか、実施できませんでした。特に、2人でのミニ作品作りや、道具を使った遊びをするに至らなかったことを残念に思います。こちらの進行に対する考えが甘かったと、深く反省しています。成績評価は、授業態度(出席、積極的な参加度を含む)を50%、レポート課題20%、グループワーク30%。グループワーク発表(3回)の日に休んだ人も多く、評価がしづらかったです。既定の出席回数を充たし、3回のグループワークのうち2回以上出席、レポート提出で、単位認定としました。

4 授業改善の方法

まず座学先行で、5回の講義を実施し、しっかりと幼児の身体活動についての意義に対する理解を深めたうえで、残りの2/3で具体的な身体活動を体験する構成に変える必要がある。座学の際には、実際の幼児の身体活動場面を映像で紹介したり、理解を促すアプローチを工夫する必要がある。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 福井 靖子 **職名** : 非常勤 **所属** : 地域こども学科
科目名称 : 保育(表現・幼児造形) **科目群** : 地域こども学科 専門教育科目
授業コード : 53151abc **授業形態** : 演習 **受講者数** : 67名 **回答者数** : 40名

回答者内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども学科	専攻科福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉コース	食物栄養コース	ビジネスキャリアコース				
	40	-	-	-	-	-	-	40	-	-	-

評価項目	教員の自己評価	学生の評価平均		◇ 教員の自己評価							
		1	2	3	4	5	学生の評価平均				
受講態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	4.50	[Progress bar]					◇		
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 90分程度	60分程度	30分程度	ほとんどしていない	無回答	-	-	-	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分以上 90分程度	60分程度	30分程度	ほとんどしていない	無回答	-	-	-	-
授業内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.03	[Progress bar]					◇		
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切であった	非常に高かった 5.0%	やや高かった 12.5%	適切であった 75.0%	やや低かった 7.5%	非常に低かった	無回答	-	-	
授業の進め方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	3.95	[Progress bar]					◇		
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する必要はなかった 10.0%	注意していた 42.5%	ある程度注意していた 37.5%	あまり注意していなかった 10.0%	全く注意していなかった	無回答	-	-	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	3.83	[Progress bar]					◇		
総合評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.03	[Progress bar]					◇		
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.36	[Progress bar]					◇		

1 授業の概要、特徴等

幼児の成長にとって重要な役割を果たす幼児造形活動について、講義と実践によって理解を深める。造形表現では、技法や技術にとらわれずに自由な表現活動ができることを念頭に置かねばならない。幼児の生活経験や思いつきなどを大切にすることで、創造的な態度を醸成するためのより具体的な指導法を学ぶ。幼児造形の基本としての、描画・制作・土粘土を前半で学ぶ。応用として、保育実習や採用試験での実践力をつけるために、小麦粉粘土・モダンテクニック・ポップアップを後半で学ぶ。

2 アンケート結果に対する見解

学生にアンケートを行った時期が後期の途中で、全ての授業内容が終わっていないかった。前半の基礎的な内容を踏まえて、後半の応用的な内容(実習や採用試験での実践力になるもの)を学ぶように授業を組み立てているので、後半を受けていない学生のアンケート結果には少し疑問が残る。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

本授業では毎回技法の異なる新たな造形活動をするため、学生は全授業に出席して造形作品を完成させることが、授業の目標達成のためには必要不可欠である。成績評価基準は、活動時の態度・理解度・準備・後片付け・完成作品の評価・スケッチブック(クロッキー)の評価の総合で判断し、単位を認定する。(欠席した学生には、次回個別で可能な限り指導して造形活動を行ってもらった。)

4 授業改善の方法

全体として、造形活動の楽しさは体感できたと思われる。しかし、とても意欲的な学生から、私語が多くて講義の内容を理解できていない学生まで、授業態度や理解度の違いが大きい。活動している学生の間を回りながら個別に言葉掛けをしていたが、今後はもっときめ細かく指導していきたい。特に熱心な学生には、より高度な技法や深い理解を求めて個別に指導していきたい。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 加藤 明日香 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 介護予防 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7225 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 4名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	4	-	-	-	-	-	4	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	3.75		■ ◇				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 25.0%	ほとんど していない	無回答 75.0%	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 50.0%	ほとんど していない	無回答 50.0%	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.50		■ ◇				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった -	やや 高かった 25.0%	適切 であった 75.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.25		■ ◇				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	あまり 注意して いなかった	注意す る必要 はな かった 25.0%	注意 していた 25.0%	ある程度 注意 していた 50.0%	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.25		■ ◇				
総 合 評 価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	4.25		■ ◇				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	4	4.50		■ ◇				

1 授業の概要、特徴等

授業は主にプリント(穴埋め形式)を使い、ビデオやスライドも使いながらイメージがわかりやすいように介護の現場での体験などを伝えながら行っている。授業内容としては介護予防に携わる職業の理解や、主に老年期における障がいや疾患、活用される福祉用具などの理解を深め、チームアプローチの重要性を学習してもらう。また、介護予防の意味や介護保険の内容も理解できるように授業を行う。

2 アンケート結果に対する見解

概ね全体平均以上であったが、項目①の勉強しやすい雰囲気づくりに貢献したかという問いに対して当科目平均は全体平均を下回っていた。考えられる要因としては、やや複雑な専門用語や内容の場合や、スライドを主に使用している際に居眠りや携帯を触っている生徒が目立っていた。都度注意を行いながら、集中して授業が受けられる環境づくりを行っていききたい。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の達成目標は「介護予防に携わる職業の理解や、主に老年期における障がいや疾患、活用される福祉用具などの理解を深め、チームアプローチの重要性を知ること。」また、「介護予防の意味や介護保険の内容も理解すること。」である。成績評価基準は出席率、授業態度と提出物とテストで行う。

4 授業改善の方法

集中して授業が取り組めるように、授業内容で難しい用語や難しい内容にならないようにする。また、生徒が居眠りをしたり携帯を触っていたりする場合は都度注意を行う。成績評価基準における『授業態度』の割合を高く設定することも検討する。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 竹花 正剛 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 現代社会と疾病 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7435 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	5	-	-	-	-	-	5	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	4	4.20		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	-
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	ほとんど 課していない	120分 以上	90分 程度	60分 程度	30分 程度	ほとんど していない	無回答	-
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	4.20		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	適切 であった	非常に 高かった	やや 高かった	適切 であった	やや 低かった	非常に 低かった	無回答	-
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	5	4.20		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意する 必要は なかった	注意する 必要は なかった	注意 していた	ある程度 注意 していた	あまり 注意して いなかった	全く 注意して いなかった	無回答	-
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	5	4.20		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	5	4.00		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	3.80		■				

1 授業の概要、特徴等

高齢者の疾病と障害に関して、認知症に限定せずに、加齢に伴う心理特性、パーソナリティ、認知特性、幸福感、精神障害や認知症との関連と相違などに関する最新の情報を配布資料と動画、PPTを毎回活用しながら講義を進めた。毎回、学生とディスカッションする時間を十分とりながら、受け身的な講義にならないように工夫した。特に、この講義のユニークな点は、実際に活躍しているセラピー犬が講義に参加することであり、心理学的な視点からエイジングを論じた点である。

2 アンケート結果に対する見解

講義はできるだけ学生との対話形式で行うようにしたが、その分事前に配布したPPT資料を十分に活用できず、知識の習得といった点では散漫な点も多々見られたことは反省材料である。一方、学生と意見を交わしながら、特定のテーマに関してディスカッションできた点は評価できる。今期が最初で最後の講義であり、今回の経験を生かしての次年度への講義内容に反映できない点が残念である。資料はPPTだけでなく論文や新聞さらに動画を活用して、構造化した講義を心掛けたが、改善点は多かった。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

毎回、授業目標を達成できたかについては、PPTが毎回完結形式で作成したが、十分伝えきれたかには評価は分かれるところではある。学生の意欲と意識は高く、毎回各自が自分の意見を述べ、活気あるクラスであり、成績からも理解度だけでなく、自己の意見、考察は高いレベルであった。それ故、こちらが定めた評価基準に達しており、単位認定にふさわしいレベルであったと言える。

4 授業改善の方法

事前学習として、毎回のテーマが決まっていたので、講義資料ないし教科書を熟読することで、さらにディスカッションの質が高まると考える。ディスカッションのテーマをあらかじめ指定して学生がプレゼンする形式も取り入れると意識と理解がもっと高まったように思われる。内容的にも、毎回のテーマに関して盛りだくさん過ぎて未消化に終わった講義の回もあり、重要ポイントについて散逸にならないように考慮した講義を展開する必要がある。

教員による授業アンケート (2014年度 後期)

教員名 : 吉田 裕司 **職名** : 非常勤 **所属** : 専攻科
科目名称 : 発達と老化の理解 **科目群** : 専攻科 福祉専攻 専門教育科目
授業コード : 7410 **授業形態** : 講義 **受講者数** : 5名 **回答者数** : 5名

回答者 内訳	学年				学科・コース						
	1回生	2回生	その他	無回答	生活未来科			地域こども 学科	専攻科 福祉専攻	その他	無回答
					生活福祉 コース	食物栄養 コース	ビジネス キャリア コース				
	-	-	5	-	-	-	-	-	5	-	-

評価項目		教員の 自己評価	学生の 評価平均		◇ 教員の自己評価 ■ 学生の評価平均				
					1	2	3	4	5
受講 態度	① 勉強しやすい雰囲気づくりに配慮しましたか。	5	3.80		■				
	② 事前学習や課題を課しましたか。	時々課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 -	30分 程度 40.0%	ほとんど していない 60.0%	無回答 -	
	③ 事後学習や課題を課しましたか。	常に課した	120分 以上 -	90分 程度 -	60分 程度 20.0%	30分 程度 60.0%	ほとんど していない 20.0%	無回答 -	
授業 内容	④ 教科書、プリント、視聴覚教材(ビデオなど)を、授業の理解に活用しましたか。	5	3.60		■				
	⑤ この授業のレベルは、学生にとって適切でしたか。	やや 高かった	非常に 高かった -	やや 高かった 40.0%	適切 であった 60.0%	やや 低かった -	非常に 低かった -	無回答 -	
授業 の 進 め 方	⑥ 学生に分かりやすい説明を心がけましたか。	4	3.40		■				
	⑦ 授業の進行を妨げる行為に対して注意をしていましたか。	注意していた	注意する 必要は なかった 20.0%	注意 していた 80.0%	ある程度 注意 していた -	あまり 注意して いなかった -	全く 注意して いなかった -	無回答 -	
	⑧ 学生の理解度を配慮しながら授業を進めましたか。	4	4.20		■				
総合 評価	⑨ 学生に新しい知識や技術を与え、問題意識や関心を高めることができましたか。	4	3.80		■				
	⑩ この授業は学生の将来に役立つと思いますか。	5	4.60		■				

1 授業の概要、特徴等

概要 介護に必要な加齢医学について学ぶ。特に高齢者に多い疾患、介護が重要な役割を担う疾患について理解を深める。
特徴 国家試験に即した内容を中心とする。教科書、スライド、プリント、練習問題を用い講義を進める。声が行きわたる様にマイクを使い、欠席者にもプリントを配布し、後部座席にも見えるようスライドを用い、学生に公平に授業内容を伝えることに努める。

2 アンケート結果に対する見解

講義中、私語は注意したが、居眠りは注意しなかった。遅刻はなかった。指定席制は授業の雰囲気作りに寄与していると考えられる。教材プリントは当アンケート終了後、印刷機器の向上で見やすくなったと思う。誤植はなかった。説明の仕方については、内容がやや高度なので、写真、画像を増やして対応したが、不十分な様である。授業中、少し脇道にそれ、リラックスする時間を作ったり、質問する時間を設けたりしたが、きつく感じる受講者がいた様だ。

3 授業の目標達成及び成績評価基準と単位認定

授業の目標達成 介護に必要な加齢医学について学び、特に高齢者に多い疾患、介護が重要な役割を担う疾患について理解を深める事を目的とする。
成績評価基準と単位認定 受講姿勢10%筆記試験90%で採点し、60%以上の得点で単位を認定する。また基準に満たない場合、課題提出の有無や課題作文の内容を加味して単位を認定する場合がある。

4 授業改善の方法

国家試験に即した内容を分かりやすく伝えることを目指してきたが、内容がやや難しく、授業のねらい・目的が必ずしも達成できていない。来期は国家試験ベースにするにしても、一人一人が意識やスキルをアップできるように、個人の意見や考えなど自由度を増やした課題を多く取り入れることを考えている。

